



天満宮

題字／後西天皇御宸筆

特集

◆ 天神さまと私

将棋棋士 竜王 羽生善治氏

◆ 北野天満宮と明治維新一五〇年

◆ 京の七夕 北野七夕祭 斎行

—— 遠藤湖舟写真空間「星河悠久」開催 ——

菅公御歌

彦星の行あひを待つかささぎの渡せる橋をわれにかさなむ

日本文化の中心地 京都

その文化の礎を築いた天神信仰発祥の社

北野天満宮の由緒

当宮は御祭神に菅原道真公（菅公）をお祀りした全国天満宮・天神社一万二千社の宗祀（総本社）の神社です。

天神信仰発祥の社として今から千年余り前の村上天皇天曆元年（九四七）六月九日、御神託により平安京の天門にあたる北野に御鎮座致しました。天徳三年（九五九）右大臣藤原師輔卿が御社殿を造営、一條天皇により北野祭は官祭に与り、「北野天満大自在天神」の神号を賜り、さらに皇室・朝廷の崇敬を受け二十二社に加えられ、臣下として初めて官幣中社に列格、皇城鎮護の神として崇められるとともに、天満宮・天神社の総本社として崇敬されてきました。

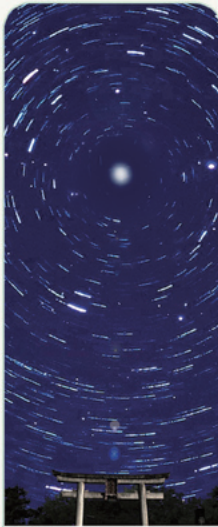
創建以来、皇室との御縁深く、寛弘元年（一〇〇四）には一條天皇がはじめて北野社に行幸されました。以来歴代天皇の行幸も二十数度に亘り、さらに將軍家や有力大名の崇敬を受けました。菅公薨去延喜三年（九〇三）より凡そ百年の歳月をかけて誕生した北野の天神信仰は、平安京の天門にあつて、朝野を問わず人々の暮らしの最も重要な指針となり今日まで育まれてきたのです。

「文道大祖風月本主」と崇められた菅公は、和魂漢才の精神で誠の心を以って学問に勤しまれたことから、学問をはじめ芸能・農耕・厄除け・至誠・冤罪を晴らす神として奉祀されるときに、人々の心の支えとなる神として、各時代の社会構造と相まって篤い崇敬をうけ、庶民に至るまで「天神様」として親しまれてきました。菅公は、学者・政治家また詩人・教育者として多方面に活躍され、生涯一貫された「誠の心」は、日本人の感性として現在にも生き続けています。

千有余年に亘る歴史の中で受け継がれてきた天神信仰の根本を示すのが、当宮所蔵の国宝「北野天神縁起絵巻」承久本です。数ある縁起絵巻の中で唯一無二の神社絵巻物であり、その信仰性や描かれる世界観、美術的価値は世界が認めるところであります。

また現在の御社殿は、豊臣秀吉公の遺命により豊臣秀頼公が片桐且元を奉行として、慶長十二年（一六〇七）に造営された一大建築群です。御本殿は八棟造と称され、国宝の指定を受ける桃山文化の代表的建築です。その絢爛豪華さは謂うまでもありませんが、特に多数の桃山建築中でその創建当時の規模そのままに保存されているのは当宮が唯一のもので、後世の権現造の原型となるなど、神社建築史に多大な影響を与えています。

菅公の御神霊を祀る北野天満宮は、御墓所・太宰府天満宮と共に全国天満宮の宗祀と称され、日本文化の礎、学問の神様として今日も多くの参詣者が訪れています。



【シンボルマーク】

平安京の天門に位置する北極星を星梅鉢と鳥居（北野）で捉えたマーク
（平安京については裏面参考）

表紙写真 満点の星に彩られた夏の夜空 —遠藤湖舟写真空間「星河」より—

平安京大極殿の北西(天門)に位置する当宮に、帝が遙拝された際は必ず三光門の上空に北極星が光輝いたという伝説「星欠けの三光門」にあらわされるように、北野天満宮の信仰の象徴でもある北極星。今回開催の特別展では京の七夕信仰の礎を築いた北野を、写真家遠藤湖舟氏が「星河悠久」と題した写真空間で表現する。

（本文12頁に詳細を掲載）



御挨拶



本殿前に据えられた霊元天皇御寄進石燈籠（左奥）と有栖川宮韶仁親王御寄進石燈籠（右手前）

平安京の天門に鎮座し、日本文化の礎を築いた天神信仰発祥の社に相応しい情報発信、教化育成の資として、この季刊号社報「天満宮」を発刊してより早五年を迎えました。

この間、平成二十五年十一月に一條天皇行幸始祭の再興を記念し発刊した臨時会報を第一号とし、愈々菅公の御神徳を昂め、天神信仰発揚の一助となるよう努めて参りました。

本刊において北野天満宮の歴史や伝統を繙き、天神信仰の学術的研究を進める一方、昨年十月に竣工致しました「文道会館」では、北野の信仰に基づいた様々な文化行事を展開し、多角的な視点より北野の天神信仰を発信致しております。今後とも御祭神の御心に寄り添い、より一層の文化発信を続けて参る所存でございます。

さて、本年は明治改元から一五〇年を迎える節目にあたり、京都ではそれに伴う様々な行事が盛んに催され、改めて明治維新に注目が集まっております。当宮における関連は前号第十八号でもすでにご紹介の通りでございますが、取分け、幕末期の北野社は、万延元年（一八六〇）六月八日に古例の神楽が再興し、続く文久元年（一八六一）には、皇女和宮が北野社に参詣、元治元年（一八六四）十月十四日には愈々孝明天皇の勅命により北野臨時祭（勅祭）が再興されるなど、皇室・朝廷との関係をより深めた時期でありました。

当宮は創建以来、皇室のご崇敬のもとにその御神威が昂められてきました。境内にはその一端を現すものとして、本殿前に霊元天皇御寄進石燈籠と有栖川宮韶仁親王御寄進石燈籠が据えられています。遡ること有栖川宮家御歴代は、第百十一代後西天皇（三光門勅額『天満宮』御宸筆）の御子、幸仁親王が宮号をそれまでの高松宮から有栖川宮に改め、次の正仁親王、そして当宮に石燈籠を御寄進された第百十二代霊元天皇の御子職仁親王、さらに織仁親王、韶仁親王（石燈籠御寄進）と続き、当宮と深いご縁がありました。

有栖川宮家御歴代は学芸の造詣深く、殊に職仁親王は和歌・書を能くして歌道の宗師と仰がれ、有栖川流の書風を確立するなど、歌道・書道ともに有栖川宮家の家学として相伝されました。また韶仁親王の御子職仁親王は、明治十五年（一八八二）現在の國學院大學などの起源となる皇典講究所の初代総裁を務められています。

人々の心の拠り所である天神信仰が、各時代の社会に大きな影響を与え続け、わけても激動の幕末から明治にかけて、誠心を以て当宮を崇敬されてきた先人たちの事績を回顧する時、改めて天神様の御神威を感じずにはいられません。

すでに次の半萬燈祭に向けて、縷々準備を進めておりますが、御祭神菅原道真公の御神徳を未来へ繋ぐ式年大祭として斎行し、平安京の時代から続く景勝地「北野」を再現すべく、職員一同邁進して参る所存でございます。

今後とも、氏子崇敬者各位には何卒格別のご賛同を賜りますとともに、皆様のご理解ご協力をお願い申し上げます。

北野天満宮

宮司 橘 重十九

天神さまと私

将棋棋士 羽生善治さん



羽生善治 竜王

今号は、永世七冠を達成され、将棋界で初めての国民栄誉賞を受賞された羽生善治氏にご登壇いただき、橋重十九宮司との対談を掲載する。

(構成・編集部)

宮司 永世七冠を達成されたのに引き続き国民栄誉賞を受賞されました。大変おめでとうございます。改めてご感想をおたずねいたします。

羽生 ありがとうございます。永世七冠の方の挑戦は三回目なんです。一番最初の時から十年かかっており、達成できて素直に大変うれしく思いました。国民栄誉賞の方は、将棋の世界では初めてということもありましたので、私個人の活動ということではなく今までの将棋の世界の歴史ですとか、伝統ですとか、そういうものを併せて評価していただけたという面で光栄なことだと思っています。

宮司 いずれにしても大変なことで、心からお祝い申し上げます。さて先ほどは、学問の神・文芸の神であり総本社である、当宮御本殿に昇殿参拝されましたが、ご感想は？ また、天神さんへの思い出のようなものがあれば。

——身の引き締まる思いで初参拝でさうらしい

羽生善治（はぶよしはる）氏略歴
一九七〇年埼玉県生まれ。棋士。小学校六年生で二上達也九段に師事。中学三年生で四段。十九歳で初タイトルの竜王位を獲得。一九九四年九段に昇段。二〇一七年史上初の永世七冠達成。二〇一八年将棋界初の国民栄誉賞受賞。著書に『決断力』『大局観』（いずれも角川新書）などがある。

羽生 先ほど参拝させていただきました。常にたくさんの方がお参りされるところですので非常に光栄に思いましたし、身の引き締まる思いにさせていただきました。実は北野天満宮へお参りしたのは今回初めてなんです。京都へ来る機会は何十回もあったのですが、ご縁に恵まれなく今日に至ったという次第です。全国各地に天神さまはあり、足を運んだ天満宮もありますが、やっと一番の所へ来ることが出来て、今日はとてもうれしく思っています。

宮司 ありがとうございます。文芸の神・技芸の神でもありますので、当宮では年中いろんな催しを行っています。昨年から日本将棋連盟京都府支部の先生方のご尽力で、新たに「天神さま子ども将棋大会」をするようになりました。また、先日、勝ち抜いて「羽生先生に会おう」ということで子どもたちに参加を呼びかけたところ、大変な人気でした。子どもさんたちの将棋人気が高まっているようですけれども、先生が将棋の駒を持たれた切っ掛けは何だったのですか？

羽生 小学校の一年生の時、近所に住んでいる同級生との遊びから始まったんです。トランプやラジコン、野球といった色々な遊びの中の一つとして将棋に触れたわけです。で、最近では本当に小さなお子さんが関心を持って下さっているわけですが、目的としては将棋を強くするということよりも、少し落ち着きを持たせ



撫牛に祈願



正式参拝

ようとか、集中力をつけさせるというお稽古ごとの一つとして親御さんの理解もあつて始めるというケースが非常に増えていると思います。ですから、天満宮のような会場で将棋大会を開催していただくということはそれにふさわしい場所だけに大変有り難く思っています。

――将棋ブームは一過性でなく世代を超えた交流の場として未永く――

宮司 長年将棋界をけん引され、羽生ブームが起こり、将棋人気を支えてこられたことに敬意を表します。そして、今また若い藤井聡太六段（その後七段に昇段）の登場によって、さらに将棋熱が高まりつつありますが…。

羽生 そうですね。とくに子どもさん、小学生、あるいは幼稚園児ぐらいの子どもさんが非常に高い関心を持っていただいているようで、将棋大会を開催すると定員の倍ぐらいの人が集まったりしています。もちろん、そういう風にたくさんの方に関心を持ってもらうということは非常にありがたいことなのですが、単に一過性のブームに終わらないように繋げていかなければならないと思っています。友だち同士ももちろんいいのですが、親子あるいはおじいさんと孫とか、何か世代を超えた交流の場の一つとして将棋が未永く使われていくというか、生活の中に存在しているというところを目指してやっていかなければならないと思っています。

宮司 将棋を楽しむ人が非常に多い中で、現役の棋士はわずか百六十人程度と伺っています。やはりプロ棋士は天才しかたない、ということでしょうね。

羽生 そうですね。ちよつと制度上の制約がある関係上、十代の頃に始めないと、プロになるのが難しいという面があります。ただ、棋士になれるかどうかということは、もちろん先天的に持って生まれた能力や才能も大事ですが、同時に持続するというか、継続して続けていけるかどうかというの方が、持って生まれたものよりも大きいので、持続する、努力を続けられるということが結構一番の要になるような気がします。

――将棋の良さは根気力の涵養と相手に敬意を持つ作法が大切――

宮司 根気力を養うことも大事なですね。

羽生 そうです。対局も長いですし、それを目指していくプロセスも非常に長いので、瞬間的にぱつと何かをやるといふよりも、地道に着実にコツコツと続けられる気質が大事なかな、と思っっています。後は、相手がいて初めて対局が成り立ちますので、単に勝った、負けたという勝負をつけることではなくて、相手の人に敬意を持つ、あるいはその駒も大切にしていくという一つ一つの動作であつたり、作法が大切なのだと思っています。

宮司 その辺りを子どもたちはしっかりと学びとってほしいですね。将棋は海外から日本に伝わった後、色々変わったのでしょうか。

羽生 ええ、日本に伝わってきたから今のようルールが変わってきています。例えば成駒というものは他の国の将棋でも一応あるのですが、一番多く成れるのは日本の将棋ですし、それは取った駒がもう一度使えるので、同じ色の駒で指しているというのは日本の将棋だけなんです。普通は取った駒をもう一度使わないので、自分の方の駒と相手の人の駒の色が違います。チェスだったら黒と白とか、中国の将棋だったら赤と



宮司と羽生氏対談



自身の経験や将棋についても語られた

黒という風に、自分と相手では駒の色が違うというのが一つの特徴です。

宮司 将棋は中国から日本に入ってきて、そのように変化したのでしょうか。

羽生 結構難しい話でして、中国や朝鮮半島から来たという話と南の方から入って来たという二つがあります。どうもその二つが融合して現在のルールになっている、ということはあります。例えば、中国の将棋はマス目に置くのではなく線と線の交差に駒を置いたりします。しかも駒が丸っぽいということで、日本の将棋の形とはちよつと違います。ただ桂馬ですとか香車に該当するような駒はほぼ万国共通です。多少動きは違いますけれども、そういうところでの共通項みたいなものがあります。ただ恐らくですが、千年前とか千五百年前とかに入ってきて、その後かなりルールは変わっています。

宮司 先生が当宮にお越しになることが決まってから、職員が当宮と将棋に関係することをいろいろ調べまして、つい最近わかったことがあります。京都に曼殊院という門跡寺院があります。明治に入って神仏分離によって分かれたのですが、それまでは曼殊院の門主が当宮の別当として管理していたのです。その曼殊院に『将基馬寫』と記された古文書があり、そこには将棋駒の文字が非常に達筆で書かれ、同じ字をたびたび書いて練習しているような部分もあるそうです。どうやら現在の形の将棋になる前の「中将棋」のものらしいのですが…。

羽生 そうなんですか。

宮司 大阪商業大学の古作登先生（大阪商大アミューズメント産業研究所主任研究員）が、最近論文に書かれています。駒文字の書き方手本といったところで、室町時代にこの冊子を手本にして曼殊院で駒づくりをしていたか、駒づくりの指導を行っていたことが考えられるそうです。当宮は書道の神でもありますから、そうした流れから当宮を管理する曼殊院が将棋駒と関係していたのではないかと私は推測しているのです。

— 先人の知恵を学ぶ思いがする将棋のルール

羽生 大阪商業大というのは、恐らく日本で唯一遊戯史を研究されている機関ですので、研究が進めば学術的に大きな発見になるかもしれませんね。先ほどの将棋のルールの話ですけど、どうすればより奥深いものになるのかとか、より難しいものになるのか、ということと、千年とか二千年とかずっと続けてきて今のルールになっているので、指しながら何か先人の知恵を学んでいるという面は間違いなくあると思います。

宮司 将棋は本当に奥が深いですね。

羽生 誰がつくったのかわかりませんが、いろんな人たちが工夫と改良を続けて今のルールになっていますので、指していくうちに、いにしえの人たちの叡知を習っているというか、触れているという風に思っています。

宮司 今、修学旅行のシーズンです。毎年、全国からたくさんのお修学旅行生が当宮を訪れ、御本殿に昇殿参拝される生徒さんは、一日で六十クラスを超える日もあります。子どもたちへ向けてのメッセージのようなものがあれば。

羽生 中学生や高校生では、本当の意味で深く理解できるかといえはまだまだ難しい時期だと思えますので、もう少し大人になってから再び訪れて下さい、と言いたいですね。今回、修学旅行で訪れたということで、また年月をおいてもう一回、ぜひ来てほしいと思います。

宮司 ありがとうございます。今後も益々のご活躍をお祈りします。

北野天満宮と将棋 — 曼殊院との深いつながり —

曼殊院跡



周知の通り、当宮と現在一乗寺にある天台宗門跡寺院曼殊院は密接な関係にある。北野天満宮が造営されると、曼殊院の是算国師が菅原家の出であったことから初代北野別当職につき、天暦年間より明治維新まで、およそ九〇〇年間にわたり北野別当職は曼殊院門主が歴任した。神仏習合の思想のもと、両者は深く結びついてきたといえるだろう。

その曼殊院において、将棋の棋譜にまつわる大変貴重な資料が先ごろ発見された。中世に支配層と知識階級の間で頻繁に遊ばれた「中将棋」。その「中将棋」の駒の書き方見本と思われる史料『将棋馬寫』である。成立年代は不明であるが、紙と製本様式からはおそらく江戸初期のもので、写本であり原本の成立は中世に遡ることが想定されている。『将棋馬寫』には、「金」の文字のかき分けなどに関して細かく指示されている箇所もあり、大変実践的な様子であるという。

他に古い将棋関連資料としては、現在水無瀬神宮に所蔵されている「象戯図」（一五九二）が有名であるが、こちらも曼殊院が所有していた「象戯種々之図」を、安土桃山時代の公家水無瀬兼成が写したものだと思われる。駒作りまたは駒作りの指導が、曼殊院ひいては北野社において行われていた可能性は、なかなか高いと考えていいのではないだろうか。

余談ではあるが、北野天満宮の宝物、室町時代に松梅院梅寿丸の依頼により成立した土佐光信による『天神縁起絵巻』の詞書を書いている当時の文化人・公家であった三條西実隆（一四五五—一五三七）も将棋にはまっていた一人だという。日記の中に二〇〇回もの「将棋を指した」という記述が残っており、また将棋駒を十数回も書いていたことが記されている。能書家として知られた実隆には駒書きの依頼も多く、東寺の大僧正などからも依頼があった。当時より能書家による駒書きという文化があったようである。

京都における将棋の人氣が高まるのは十六世紀の後半のこと。北野社にも将棋愛好家が幾人もいたと、神龍院で住職をしていた梵舜（一五五三—一六三二）の日記に記されている。

これらの事柄から、曼殊院と将棋と、そして学問、書道の神様であった北野天満宮の深い関りが窺える。古くから将棋とご縁がみられる当宮において、今後ますます現代における将棋界の活況に寄与すべく様々な活動を推し進めていく。

【参考文献】増川宏「『将棋の歴史』平凡社新書二〇一三年

古作登「各種大型将棋成立の背景に関する考察

— なせ中将棋や泰将棋が作られたのか —

『大阪商業大学アミューズメント産業研究所紀要』第十八号二〇一六



北野天満宮と明治維新一五〇年

北野文化研究所 室長 松原 史



図2 霊元天皇御寄進石燈籠（右）有栖川宮韶仁親王御寄進石燈籠（左）



図3 長州藩奉納狛犬

本年は明治維新一五〇年にあたり、各地で関連する行事や展覧会が盛んに催されている。古来皇室・宮家はもとより大名家から一般庶民に至るまで広く崇敬されてきた当宮境内には、幕府方・新政府方を問わず、幕末明治の歴史絵巻に登場する人物たちゆかりの品と伝わるものが数多く残されている。明治維新一五〇年を機に、ここではその一端を紹介することにも、幕末・明治期の北野天満宮の状況、皇室と天満宮の関わりについて改めて振り返りご紹介したい。

北野天満宮の幕末・明治 — 孝明天皇による北野臨時祭（勅祭）の再興 —

幕末期の北野天満宮の歴史を紐解けば、様々な古式の再興が行われている。明治四二年（一九〇九）にまとめられた『北野誌』によると、まず万延元年（一八六〇）、応仁の乱により中絶していた神楽が再興される。次いで文久元年（一八六一）、江戸下向を前に皇女和宮による参詣が行われ、元治元年（一八六四）には、その兄、孝明天皇の命により、宝徳二年（一四五〇）を最後に記録の途絶えていた北野臨時祭が再興されるなど、朝廷との関係を深めつつ、古式の再興事業が相次いだ様子が窺える。

その後、大政奉還を経て、世にいう「神仏分離令」により神社界に激動の変革がもたらされた。当宮においても、慶応四年（一八六八）に創建後間もなくより続いてきた曼殊院による別当職が停止され、仏教色の色濃かった夏堂・朝日寺観音堂・毘沙門堂・輪蔵・弁天堂・法華堂・鐘楼・多宝塔・伴氏石塔等が、他所に移された。神仏習合のもと境内におさめられていた仏像、仏舍利等もすべて他に譲られている。

明治三年（一八七〇）には、神祇官により当宮は中祭の社とされ、翌年に官国幣社の制が敷かれた際には、官幣中社となり、吉田神社の次、八坂神社の上と定められた。（明治六年には太政官第三二三号をもって日枝神社の次、月山神社の上と修正されている。）

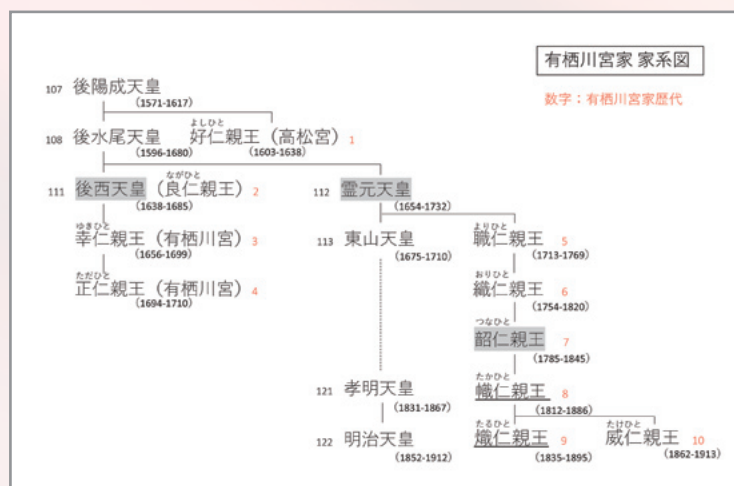


図1 三光門 後西天皇御宸筆勅額



図6 新門辰五郎御奉納常夜燈



図5 島津斉興公御奉納金燈籠一对



図4 山国隊奉納石燈籠



一般に神仏分離令により仏教は打撃を受け神道は活況を呈したと思われるが、当宮においては、制度改革のおりを受け、宝物や建物施設の離散を見るなど混乱の時代であったといえる。なおこの頃より公称として北野神社の呼称が使われるようになり、昭和二十年（一九四五）神社制度が廃止されたのを機に、翌年より旧来の北野天満宮を正式名称とした。

有栖川宮と北野天満宮

明治維新の立役者の一人、有栖川宮熾仁親王を輩出した有栖川宮家は、江戸初期の寛永二年（一六二五）に後陽成天皇の第七皇子好仁親王により創設され、大正に至るまで歴代書道・歌道の師範を務める学問の家として継承されてきた。学問の神様を祀る当宮とも、当然浅からぬ縁があり、当宮のシンボリックな建築として知られる三光門を飾る『天満宮』の勅額（図1）は、有栖川宮家の二代、後西天皇からいただいたものである。また本殿前の中庭、老松の横には、有栖川宮昭仁親王の御寄進による石燈籠があり、その先祖にあたる霊元天皇御寄進の石燈籠もその隣に献燈されている（図2）。

昭仁親王の第一王子で、維新後に神祇事務総督となり、新たな寺社行政を取り仕切った有栖川宮熾仁親王は、明治十五年（一八八二）、のちの國學院大學等となる皇典講究所が設立された際、初代総裁となっている。明治十八年（一八八五）には、京都にも京都皇典講究所が設立され、北野天満宮とご縁も今に続いている。

幕末・明治ゆかりの品と北野天満宮

境内の維新政府方ゆかりの遺構を見ていくと、まず表参道二ノ鳥居の前に長州藩奉納の狛犬（図3）が、また御本殿の北西には戊辰戦争で新政府軍として参戦した丹波・山国隊奉納の石燈籠（図4）が奉納されている。なおこの山国隊が従っていたのが、前出の有栖川宮熾仁親王である。天保十一年（一八四〇）に薩摩藩主島津斉興公より奉納された宝珠と薩摩十字がデザインされた見事な金燈籠一对（図5）は、現在宝物殿で特別公開中である。

一方、最後の將軍徳川慶喜の警護を務めた新門辰五郎が奉納した常夜燈（図6）や、絵馬堂に掲げられた新選組の御旗の元となったと伝わる「誠」一文字の絵馬（図7）など、幕府方に関係する遺品も奉納されている。また、木戸孝允公愛用と伝わる硯など、書道の神様北野天満宮だからこそ奉納されたのではないかというゆかりの品もみることができる。

討幕派、佐幕派と立場は違っても彼らに天神信仰があったことをこれらの品々は語っている。天神信仰は、当時の人々にとってとても身近なものであり、菅原道真公発信の和魂漢才という思想は、和魂洋才へと姿を変え、幕末明治を生き抜く知恵を彼らに与えた。重層低音のように、「和魂漢才」という菅公の精神、そして混沌の世の中の光としての「天神信仰」が窺えるといっても過言ではないだろう。ご参拝の折には、ぜひこれらの歴史遺産にもご注目いただきたい。



図7 「誠」一文字の絵馬



北野天満宮の重儀



北野御手水神事の再興



例祭（北野祭）

八月四日 午前九時 齋行

永延元年（九八七）、一條天皇が初めて北野祭を勅祭として齋行された日にあたり、一年で最も大切な祭典。

御手洗祭前夕饗

八月六日 午後四時 齋行

御手洗祭に先立ち御神前を清め、菅公御遺愛の松風の硯、角盥、水差しを祓い、翌日の御手洗祭齋行を御祭神に奉告申し上げる祭典。

御手洗祭

八月七日 午前十時 齋行

御神前に菅公御遺愛の松風の硯を始め、角盥・水差し（何れも手水器）・梶の葉（古くは短冊の代用品として使用）を七枚、そして季節の物として、ナス・キュウリ・マクワ等の夏季野菜や、素麺・御手洗団子をお供えして執り行う祭典。



御神前に御手洗団子をお供える



例祭（北野祭）

例祭「北野祭」から 重儀「御手洗祭」に続く一連の神事

当宮は、村上天皇天曆元年、天神地祇を祀る「地主社」が鎮座する平安京の天門「北野」に菅公の御神霊を祀り、北野社（現在の北野天満宮）を創建したのが始まりである。永延元年（九八七）一條天皇により勅祭「北野祭」が齋行され、菅公は臣下にして異例の「北野天満大自在天神」の御神号を賜った。

爾来皇室の御崇敬篤く、皇城鎮護の神として奉祀されるはもとより、公家・将軍・識者・庶民に至るまで「天神様」として崇められ、その信仰は北野から全国に伝播し、今や一万二千社が祀られている。

当宮で最も重要とされる例祭「北野祭」から、重儀「御手洗祭」齋行までの一連の祭事は、北野祭礼の中核を成す期間である。



北斗七星があらわれた東山天皇即位の装束



角盥

水差し

菅公御遺愛の
松風の硯

七夕御神事秘文



御手洗祭斎行の意義

【夏越の大禊神事としての御祭】

北野では、八月七日（旧暦七月七日）の御祭を御手洗祭（御手水祭）と称して斎行してきた。古来、この御祭は初秋にあたる北野の四季祭の一つと数えられ、悪夏清秋交替の大祓神事を意味する重儀と伝わる。

御手洗祭では、内陣に松風の硯・角盥・水差し・梶の葉を供えるが、古くは祭典中に、角盥の上で梶の葉に水差しの水をかける儀式があり、梶の葉は詩歌の短冊代わりとするのは勿論のこと、その葉形が人手の形に類似することから、葉に水をかけるのは「お手洗い」の形を奉仕するものと捉えられた。これはすなわち「禊」をあらわす姿であり、つまり北野の御手洗祭は六月の夏越大祓から繋がる「夏越の大禊祭」と考えられるのである。

故事によれば御手洗祭前数日に亘り、内陣の御掃除を行い、内陣に供わる御祭神の御装束類を祓い清めて虫干しを行い、前三日は一切精進潔斎、前日夕は社中一同参籠し翌日の御手洗祭に奉仕したと伝えられている。

【学問信仰としての御祭】

明治までの御手洗祭では祭典終了後に菅家六家、すなわち高辻・五條・唐橋・東坊城・清岡・桑原諸家の十七・十八歳にあたる年頃の若人に対し「献策」があった。

献策とは、菅家六家の若人が楼門東口より参詣昇殿し、先ず御神前にて文章一篇を作つて供える。次に對策と呼ばれる口答試験（様々な学問上の質疑応答）を行い、これが無事に終わると、「秀才」という稱號（称号）を与えられた。これは文道の家系たる菅家六家に限られた秘儀として執り行われていた。

【機織り信仰としての御祭】

当宮の七夕祭は、いわゆる星祭ではなく、我が国の機織りの祖神である天棚機姫神をお祀りする信仰である。さらに機織りで有名な西陣を中心とする七夕信仰も根強く、北野は「機織り文化と棚機信仰の地」である。

菅公の御心に深く関わる北野の七夕信仰

菅公御歌「彦星の行あひを待つかささぎの
渡せる橋をわれにかさなむ」

彦星が織姫星との出逢いを待つて天の川にかけるという鵲の橋。彦星でさえ一年に一度、妻である織姫星に逢えるというのに、どうか私にもその橋を貸して欲しい。それを渡つて都に帰りたい。京の都への切なる望郷の念にかられた御歌を大宰府の配所で詠まれた菅公は、その願いも空しく薨去された。七夕信仰は御祭神の御心に深く関わる天神信仰の重要な一面である。



金蒔絵の角盥と梶の葉



御手洗祭



御手洗川足つけ燈明神事の様子



以来、北極星が瞬く天門に鎮座する当宮は、天の神氣への畏敬による三辰信仰（太陽・月・星に対する信仰）の聖地と御手洗神事ゆかりのお社として信仰されています。

平安時代、『四神相応』の信仰の礎、菅公の御神霊は村上天皇の勅命により平安京の最も重要な聖地、北西の乾にあたる「天門」に迎えられ、北野社（現在の北野天満宮）が創建されました。北野の地は、衣笠山（現在の金閣寺辺り）を源泉とする西大宮川（松葉川）が流れ、その水は境内神域で清められて、平安京大内裏（大宮御所）の御用水として用いられたと伝わります。

三辰信仰の聖地



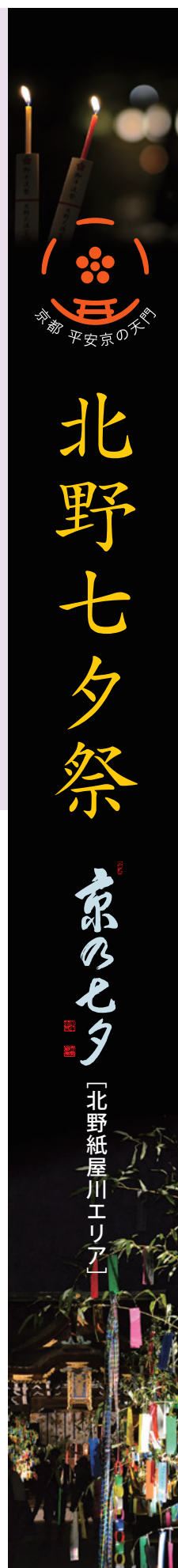
平安京ゆかりの清め神事
御手洗川足つけ燈明神事
境内夜間特別ライトアップ
八月四日（土）～十六日（木） 午前九時～午後八時（最終受付）



北野七夕祭

東の七夕

「北野紙屋川エリア」



境内夜間特別参拝と
史跡御土居のライトアップ
八月四日（土）～八月十六日（木）
日没～午後9時（閉門）



期間中は、特別に境内夜間参拝と史跡御土居のライトアップを実施します。七夕笹で飾られた境内一円をライトアップの光が照らし、幻想的な雰囲気演出。七夕の夕べを盛り上げます。

第四回 北野天神泣き相撲
知恵を授かり、明るく元気な子供に！
八月五日（日） 午前10時～正午頃



旧暦の七夕にあわせて、文武両道の天神様に子供の健やかな成育を祈願する「北野天神泣き相撲」を開催します。子供は、親にとつてかけがえのない宝であると同時に国の宝でもあります。生まれてきたお子様が天神様の御神徳をお受けになり、これからの無事成長を祈るごともに、天神様の御加護で知恵を授かり、将来立派なお子様になるよう祈念します。

学業大祭
お子様の学業成就・入試合格祈願
八月十二日（日） 午前11時
祈願絵馬・七夕祈禱木焼納式
天神さまに願ひ届け
八月十二日（日） 午前10時

夏休みで勉学に励む子供たちの入試合格・学業成就を祈願する学業大祭を執り行います。またご奉納された祈願絵馬などを厳肅にお焚き上げする焼納式を行い、皆様の願いが天神様に届くように祈念します。



七夕五色百人一首
北野天満宮大会
七月二十九日（日） 午前10時～正午

学問・文化芸能の神様である菅公にあやかり、伝統の百人一首大会を開催。参加の子供たちの健やかなる成育と技芸の上達、日本文化の発展を祈願します。



国宝御本殿特別公開

御本殿石の間通り抜け神事
御神宝・御装束の展覧

八月十日(金)～十二日(日)の3日間 午前四時～午後八時(最終受付)

御手洗ゆかりの地

当宮では七夕神事を御手洗祭と称して斎行し、古来この御祭は初秋にあたる北野の四季祭の一つと数え、大祓神事を意味する重儀として位置づけてきました。

御手洗祭は、内陣に松風の硯・角盥・水差し・梶の葉をお供えし、古くは祭典中に角盥の上で梶の葉に水差しの水をかける儀式があり、梶の葉は詩吟の短冊代わりとされました。故事によると、御手洗祭前数日に亘り、御神宝の虫干し、内陣の御掃除を行い、内陣に供わる御祭神の御装束類を清めました。前三日は一切精進潔斎、前日夕は社中一同参籠し翌日の御手洗祭に奉仕したと伝わります。

古式にならない御神宝類の虫干しにあわせ、御本殿を特別公開し拝礼いただきます。



国宝御本殿石の間通り抜け神事の様子



明治維新一五〇年記念

天神さん子ども将棋交流大会

八月十一日(土) 午前十時～午後四時

日本の伝統文化への関心を高め、子供たちの健全育成に寄与するため「学園の神様」である当宮において、将棋交流大会を開催。本年は明治維新から一五〇年の節目にあたり、先人たちの築き上げてきた歴史に学び、国家発展の礎となった天神信仰発祥の地・北野天満宮で、白熱の対局を行います。



上七軒七夕盆踊り

八月十一日(土) 午後四時～

当宮のお膝元、花街・上七軒で毎年行われる盆踊りは、地域住民が参加しての盛大な夏の行事です。西陣音頭に合せて、上七軒の芸妓さんや舞妓さん、氏子地域の皆さんが参加する地域挙げのお祭りです。



同志社女子大学

『京炎そでふれ! 花風姿』舞踊奉納

八月四日(土) 午後一時～

同志社女子大学の学生により構成された踊り手チーム「京炎そでふれ! 花風姿」の皆さんによる舞踊の奉納を行います。「踊れる喜び」がこころいふ笑顔で花風姿をコンセプトに日々活動するメンバーたちの精一杯の演舞をぜひご覧ください。



北野天満宮
「神若会北野天神太鼓会」和太鼓奉納

八月十二日(日) 午後二時～

当宮の神社青年会として活動する「神若会北野天神太鼓会」が、和太鼓演奏を奉納します。七夕飾りで彩られた境内で北野七夕祭を盛り上げるため、魂を込めて演奏します。迫力の和太鼓をお楽しみ下さい。



御手洗団子発祥の北野 北野御手洗団子茶屋

八月十日(金)～十二日(日)の3日間 午後四時～午後八時

当宮の東に位置する上七軒は、文安元年(一四四四)室町幕府の頃、社殿御修築の残材を以て、東門前の北野松原に七軒の茶店を建て、参詣諸人の休憩所としたところから、人呼んで「七軒茶屋」と称したのがその由来です。その後、天正十五年(一五八七)豊臣秀吉公が北野大茶湯を催した際、この七軒茶屋を秀吉公の休憩所に充て、名物の御手洗団子を献じたところ、いたく賞味に与り、その褒美として七軒茶屋に御手洗団子を商うこの特権と、山城一円の法会茶屋株を公許したのが、我国に於けるお茶屋の始まりであると伝えられています。現在、上七軒花街が五つ団子の紋章を用いるのは、実にこの名物御手洗団子に由来するものであり、北野御手洗神事にあわせ「北野御手洗団子茶屋」として往時の茶店を復元し、上七軒の芸舞妓さんが御手洗団子を振る舞います。





七夕特別展

北極星瞬く平安京の天門に鎮座する北野天満宮

― 北野にまつわる星の信仰になぞられた
遠藤湖舟写真空間を紅梅殿にて初開催 ―



星欠けの三光門

延暦十三年（七九四）、桓武天皇が四海平安の祈りを込めて定めた都、平安京。日本の中心地、平安楽土の地として繁栄を続けたまさに悠久千年の王都である。北野天満宮はこの平安時代中期、天暦元年（九四七）に菅公の御神霊を祀り、皇城鎮護の社として創建された。

鎮座地「北野」は、創建以前より「天神地祇」を祀り、遣唐使の派遣成功等を祈願する場所、または農業神「雷神」を祀り、五穀豊穡を祈願する地とされてきた。御神託による菅公奉祀により、北野は聖地とされ、菅公の御神威はさらに昂められ、やがて天神として北野の地よりその信仰が伝播されていくのである。

多岐にわたる天神信仰の中で、七夕信仰もその重要な一面として伝えられている。北野の七夕・御手洗信仰については過去の社報ですでご紹介の通りのためここでは詳しく述べないが、今回は北野と七夕の関係のなかでも、星にまつわる信仰に焦点をあてた特別展を開催する。

とくに慶長十二年（一六〇七）、豊臣秀頼公によって造営された三光門と呼ばれる中門は、平安京の大内裏・大極殿の北西に位置する当宮に対し、時の帝が遥拝された際は、必ず三光門の上空に北極星が光輝いたという「星欠けの三光門」の信仰が伝わり、門に星が刻まれているというわけではないのは、この北極星が天空に瞬いているためだといわれている。

夏の夜空、北斗七星をはじめとする星々が北極星を中心に巡るのと同じように、北野天満宮の信仰を表す象徴の一つである北極星。この展覧会では平安京の天門「北野」に瞬く北極星と七夕信仰を、写真家遠藤湖舟氏が「星河悠久」と題した写真空間で表現する。



兎と三日月



太陽（日の入り）



太陽（日の出）

遠藤湖舟写真空間

「星河悠久」

期間 八月四日（土）～十六日（木）
時間 午前九時～午後八時
場所 紅梅殿

悠久の宇宙から日常まで、そこにある「美」の神髄を独自の審美眼ですくい取る遠藤湖舟氏の写真作品が、七夕祭の期間、紅梅殿に登場します。中核となるのは三曲屏風『北辰』。天満宮信仰の象徴としての北極星を中心に、北斗七星をはじめとした北天の星々が円弧を描いて巡り、そこに巨大な流星が現れます。

この『北辰』を挟んで両脇には、水面にゆれる光を静と動で捉えた一對の三曲屏風『ゆらぎ』を配します。

また、織姫彦星を含めた天の川や太陽、月の作品が併置され、天神に相応しい空間が出現します。

「遠藤湖舟氏略歴」

遠藤湖舟氏は一九五四年、長野県に生まれました。幼少期は溢れる自然の中で育ち、中学生時代より星の撮影を続けてきました。二〇一五年には高島屋四店舗で大規模な個展『天空の美、地上の美。』が開催され、八万人の来場者を記録。昨年は広島県の公立美術館、ニューヨークの画廊でも個展が開催され、アメリカの美術館に作品が収蔵されました。



「北辰」



「星河」

神仏霊場会、当宮で総会開催 発足十周年記念シンポや平和祈願会も



定例総会（社務所大広間）



神仏合同国家安泰世界平和祈願会（御本殿）

近畿地方の百五十の著名社寺によって結成されている神仏霊場会（会長宮城泰年聖護院門跡門主）の平成三十年度総会が七月五日、当宮社務所大広間に約八十人が出席して開かれた。

同会は、神仏を同時に崇拝していく日本人本来の信仰心のあり方、精神風土を現代に取り戻し、穏やかな世界を願おうと発足した。

総会では、宮城会長が議長を務め、平成二十九年度の事業・決算両報告、平成三十年度の事業計画案・予算案などを了承した。総会の中で、これまでに百五十社寺を巡拝した満願者が約千二百人にのぼることが報告された。

この後、上七軒歌舞練場に会場を移し、十周年記念のシンポジウム「歴史と文化の中における神仏習合のしきたり」が行われた。当宮の橘重十九宮司、一ノ鳥居の西側にある東向観音寺の上村貞郎住職（総本山御寺泉涌寺長老）、現役の芸妓で上七軒芸妓組合組合長を務める梅嘉氏の三人がパネリストとなり、それぞれの立場から、その成り立ちや変遷について報告した。そして、コーディネーターの渡邊共章氏（総本山御寺泉涌寺教学部長）の質問に応じ、廃仏毀釈によって神仏が分離され、失ったものなどについて述べた。

総会に先立って、御本殿において総会出席者が参列し「神仏合同国家安泰世界平和祈願会」が斎行され、世界の平和を祈った。



シンポジウム開催 御寺泉涌寺長老 上村貞郎氏（中央）
上七軒芸妓組合組合長 梅嘉氏（左）北野天満宮 橘宮司（右）



玉串拝礼
神仏霊場会会長 聖護院門跡門主 宮城泰年氏



玉串拝礼 春日大社 宮司 花山院 弘匡氏

表されることは意義深い」と述べた。

「京まふ」は、九月十五、十六の両日、みやこめっせ（左京区）などで行われ、最新作品のPRやグッズ販売、ステージイベントなど様々な催しが行われる。当宮でも、フェアに合わせて宝物殿の特別開館など盛り上げ策を検討している。



京まふ 2018 記者会見の様子（紅梅殿）



日本のマンガ・アニメ文化を世界に発信

九月に京都市内で開かれる「京都国際マンガ・アニメフェア（京まふ）」Ⅱ同フェア実行委員会・京都市主催Ⅱの実施概要が七月十一日、紅梅殿で記者発表された。

「京まふ」は、出版社や映像メーカーなどが参画し六年前から開いている西日本では最大級のマンガやアニメの総合見本市。七回目を開催するに当たり、その概要の記者発表を芸術・芸能の神でもある菅公を祀る当宮で開催したいとの要請があり、実現した。

同フェア発起人の門川大作京都市長や実行委員会のメンバーと一緒に挨拶に立った宮司は「古くから様々な芸能が行われてきた当宮からマンガ・アニメ文化のフェアの内容が発

「京まふ」の記者発表、紅梅殿で開催
文化芸能の神様 北野天満宮より
マンガ・アニメ文化を世界に発信

羽生竜王が昇殿参拝、文道会館で子どもらを前に講演 ―「棋譜をつけ、多くの駒を動かせ」と上達の秘訣を伝授―

将棋界初の永世七冠を達成し、今年二月に国民栄誉賞を受賞された棋士の羽生善治氏が五月十二日、文道会館での講演のため当宮を訪れた。御本殿に昇殿参拝し、宮司としばし対談した後、講演に臨んだ。この講演は、京都市・京都市児童館学童連盟・日本将棋連盟京都府支部連合会の主催によるもので、四月に当宮で行った「羽生さんに会おう北野天神将棋大会」や他の将棋大会で優秀な成績をおさめた子どもとその保護者ら約百人が招待された。

羽生氏は「将棋から学んだこと、挑戦する勇氣」の題で、将棋を始めた動機から語り始め、自分の直観力を信じ、最初に思いついた一手を大事に指すことが非常に大切である、と指摘した。そして「自分がその日指した将棋の棋譜をノートに書く習慣をつけること」「多くの駒を動かし、一つ一つの駒をいい形で活用せよ」「簡単な詰め将棋を何回も繰り返し解くこと」など、上達の秘訣をわかりやすく話された。

さらに、将棋を始める時と終わった時には必ず相手に挨拶し、対局後は駒の数を数えて仕舞うことにより、駒の大切さが身につくと話し「様々な世代の人たちと楽しむコミュニケーションの一つとして末永く将棋を続けてほしい」と結ばれた。

講演後羽生氏

は、子どもたちとの記念撮影にも応じた。さらに羽生氏は門川大作京都市長、濱崎加奈子専修大学准教授（有斐斎弘道館館長、『天満宮社報』献詠選者）との鼎談も行い、当宮における全日程を終え、宮司の案内で境内を巡った。羽生氏が歩く中、参拝者や修学旅行生らが「羽生さんだ」「格好いい」と取り囲み、カメラを向けていた。

講演される羽生竜王



熱心に講演を聞く子供たち

梅風会だより

全国天満宮梅風会第五十二回総会 太宰府天満宮を主会場に開く



全国天満宮梅風会（会長西高辻信良太宰府天満宮宮司）の第五十二回総会が、六月十一、十二の両日、福岡県の太宰府天満宮を主会場に全国から約二百人が参加して開かれた。

十一日、太宰府天満宮へ正式参拝後、同宮余香殿で総会が開かれ、平成二十九年度の経過や収支会計が報告された。総会後、昨年世界文化遺産に登録された宗像大社の葦津敬之宮司が「宗像の歴史と未来」と題して講演した。翌十二日は、その宗像大社へ正式参拝した。

ホタルと環境について、小学生に授業

六月八日、氏子地域の朱雀第四小学校で、当宮の神職が小学三年生の子どもたちにホタルと環境についての授業を行った。この授業は毎年行っており、朱雀第四小学校では子供たちが校庭でホタルの自生の取り組みに励んでいる。授業の中で、ホタルの生態や天満宮でのホタル自生の取り組みを紹介し、地域の環境を保全していく大切さについて話し合った。



千百二十五年半萬燈祭に向けて『北野祭礼絵巻』の世界を今に 盛大に「北野天満宮 北野神輿会」 発会式挙行



祝辞を述べられる伊吹文明顧問

九年後に斎行の千百二十五年半萬燈祭に向け氏子崇敬者一体となり、かつて勅祭として行われてきた北野祭の再興の準備を進めているが、その一つ「北野天満宮北野神輿会」（井上経和会長）の発会式が六月九日、文道会館に来賓を含め約百五十人が列席し盛大に挙行された。



祝辞を述べられる大宮賣神社 島谷宮司

宮司が「北野社の歴史を調べて、ここ数年、途絶えていた祭典や旧儀の復興に務めてきた。九年後の半萬燈祭に向け今は例祭として神事のみ残っている北野祭を歴史と伝統に彩られたものとして復興したい」と挨拶。氏子講社の宮階有二講社長と梅風講社の小石原満講社長が「北野祭の復興を楽しみにしている」と、来賓挨拶をした。

北野神輿会の顧問を引き受けられた伊吹文明衆議院議員も多忙な公務の間をぬって駆けつけ「信仰のための大切な神輿であることをしっかりと認識し、京の町衆として、この由緒ある社を守ってほしい」と挨拶。最後に井上会長が「半萬燈祭に向けて北野祭の行列を必ずや復興させたい」と意気込みを述べた。

清興として、北野祭保存会と関わりがある京丹後市大宮町周枳、周枳神楽組の神楽演舞と神若会北野天神太鼓会による太鼓演奏が行われ、発会式を盛り上げた。

北野祭は、一條天皇の永延元年（九八七）八月四日、勅使参向の下、奉幣があり勅祭となったのが始まりで、豪華な行列もあったが、応仁の乱によって途絶え、現在は、例祭としてこの日に神事だけが斎行されている。

北野祭の盛大な行列の様子は『北野祭礼絵巻』（当宮所蔵、江戸時代）に描かれており、若者の崇敬者組織神若会内に北野祭保存会を発足させ、学術的な研究を進めてきた。今後は同保存会と「北野神輿会」が一体となって絵巻にあるような神輿を復活させ、渡御の伴う北野祭復興に取り組んでいく。



およそ 150 名が集った発会式（文道会館ホール）



神若会北野天神太鼓会による祝太鼓



正式参拝（北野神輿会井上会長）



周枳神楽組 奉納演舞

京都市・パリ市友情盟約六十周年

パリの夜、天神太鼓高らかに

文化芸能の神様 北野天満宮より 京都の伝統芸能代表として、北野天神太鼓を披露



北野天神太鼓、パリの夜に響く



門川市長、寺田市会議長はじめ、パリ京都両市の関係者ら約500人が集ったレセプション

フランス・パリ市との友情盟約六十周年を記念した京都市の市民代表団の一員として加わった神若会北野天神太鼓会のメンバーが六月十九日夜（現地時間）、パリ市役所内のホールで演奏を披露した。結成十周年となる太鼓会の海外での演奏は初めて。約五百人のパリ市職員や市民が勇壮な太鼓の音に聴き入り、日本の伝統芸能の素晴らしさに拍手喝采をおくった。

太鼓会の演奏は、両市首脳による共同宣言文調印式があった夜の記念式典の間をぬって行われた。メンバーは、高校生三人を含め十三人。神原禰宜が「京都の伝統芸能を代表して天神太鼓を披露します」と紹介した後、新曲の『対流』を始め『翔龍天舞』『一心』の三曲をバチさばきも鮮やかに演奏した。

演奏時間は短かったが、ドラムの音は聞きなれていても多数数による和太鼓の演奏を聴くのは大半の人が初めて。拍手が鳴りやまず、「腹にすっしり響きました」と感想を述べ、演奏後、太鼓のそばに来て、自分でバチを持って叩く人が相次いだ。

門川京都市長や寺田京都市会議長らとともに演奏を聴いていたパトリック・クルグマン副市長にミニチュアの和太鼓を記念品として贈ったほか、聴衆のパリ市民にも友情盟約六十周年を記念して作った北野天神太鼓会の千社札と油取り紙をプレゼントした。

太鼓会のメンバーは「予想以上の反響に驚いた」「太鼓を通じ北野天神太鼓の名がパリで発信できてうれしい」と、興奮冷めやらぬ表情だった。



北野天満宮や和太鼓についてパネル等で紹介



京都文化の代表として演奏

錦秋の史跡御土居「もみじ苑」公開 十月二十五日から 「KYOTONIPPON FESTIVAL」や「曲水の宴」開催 菅公精神息づく多彩な文化発信



国宝御本殿と史跡御土居のもみじ

京都の町なかでは屈指のもみじの名所として知られる史跡御土居「もみじ苑」の公開が、今年も十月二十五日から十二月二日まで（十一月十日からは夜間ライトアップ）行われる。豊臣秀吉公が築いた遺構に足を踏み入れて愛でる紅葉は、他所では味わうことのできない風情だけに、例年多くの人が訪れ、錦秋の美を堪能されている。今年も期間中「KYOTONIPPON FESTIVAL」の開催を始め、平安の雅を伝える「曲水の宴」の開宴など菅公精神息づく数々の文化的な行事を行い、全国から訪れる参拝者を「北野の世界」に誘う。

御土居は、天正十九年（一五九一）豊臣秀吉公が京都の中心部を取り囲むように築いた土塁で延長二十二・五キロにも及んだが、明治から大正にかけての開発で大半が消失し、現在は当宮境内を始め九カ所が史跡として残るだけとなっている。

その中でも当宮境内は、紙屋川に沿って古の御土居の風情が色濃く残る場所として知られる。樹齢三百五十年から四百年に及ぶ古木を含め約三百五十本もの樹木が秋の訪れとともに色づき、日を追ってその濃さを増し、錦秋の史跡御土居「もみじ苑」の公開となる。

史跡御土居「もみじ苑」の公開は、今年で十二年目となるが、入苑者は年々増え、とくに三年前、当宮がJR東海の「そうだ京都、行こう。」のキャンペーン地に選ばれたことも後押しとなり大幅に増加しはじめた。これまで当宮に縁のなかった方々にも、もみじ苑鑑賞を機に当宮を訪れて頂き、文道大祖風月本主と崇められた菅公のことをもっと知ってもらおうと、この機を捉えての文化的な行事の発信に務めている。

平成三十年

史跡御土居のもみじ苑

〈期間〉

十月二十五日（木）～十二月二日（日）

〈時間〉 午前九時～午後四時

もみじ苑

特別ライトアップ

〈期間〉

十一月十日（土）～十二月二日（日）

〈時間〉 日没～午後八時

〈入場料〉 茶菓子付き

大人八〇〇円、小人四〇〇円



もみじと鶯橋



11月3日 朝廷ゆかりの曲水の宴（白拍子奉納）



11月26日 古式ゆかしく御茶壺道中並びに御茶壺奉献奉告祭斎行



12月1日 北野大茶湯ゆかりの献茶祭
(本年当番 藪内家燕庵)



11月3日 曲水の宴の様子



KYOTO NIPPON FESTIVAL 大盛況を見せた
「乃木坂46 伊藤万理華の脳内博覧会」(昨年)



KYOTO NIPPON FESTIVAL
雨天でも盛り上がった紅梅殿トークイベント(昨年)

「もみじ苑」の整備は、崇敬会の北野天満宮講社（会長 裏千家千玄室大宗匠）の並々ならぬご尽力の賜物であるが、十一月三日、講社の益々の繁栄を祈る講社大祭の斎行に併せ、今年で三年目となる「曲水の宴」を境内西側の「船出の庭」で開宴する。

「曲水の宴」は、小川に酒を入れた盃を流して飲み、題に即した詩を賦す宴で、中国から日本に伝わり、奈良・平安時代に盛んに行なわれた。宇多天皇に重用された菅公は、記録で確認できるだけでも四回、宇多天皇主宰の「曲水の宴」に招かれており、その際に創られた詩文も幾つか残っている。菅公の御神徳を偲ぼうと有識者による「曲水の宴保存会」を組織、様々な検討を加えて一昨年の秋、千百年ぶりに再興したもので、菅公の精神が込められた宴といっても過言ではない。

「KYOTO NIPPON FESTIVAL」も日本文化の礎となった天神信仰の発祥地から文化・音楽・食の魅力を国内外に発信しようとの狙いで始まったもので、三年目を迎える今年は、十月六日から十二月二日まで文道会館を含め境内一円で開催する。

また、もみじ苑公開期間中には、もみじ連歌会、日本舞踊、もみじ寄席、和太鼓奉納などなど、例年通り奉納行事が目白押しとなっている。



紙屋川ともみじライトアップ

北野の光

斎行された祭典・行事

《四月～七月》

江戸期の賣茶翁が茶祖

賣茶本流献茶式



煎茶の賣茶本流献茶式が、四月八日午前十時から御本殿で斎行された。賣茶翁と称された江戸時代中期の高遊外を茶祖とする煎茶道で、当宮では昭和二十七年以来、毎年献茶式が執り行われている。社中の皆さまが参列される中、家元の渡邊琢祥宗匠のご奉仕により煎茶が御神前に献上された。式後、明月舎に茶席が設けられた。

明祭斎行

御神前に無実の喜びを奉告

菅公の冤罪が晴れた日に当たる四月二十日、その喜びを御神前に奉告する明祭を、御本殿で午前十時から斎行した。

従二位右大臣の位にあった菅公は、昌泰四年（九〇二）正月、左大臣藤原時平の讒言により無実の罪を着せられて大宰権帥に左降され、二年後の延喜三年（九〇三）二月二十五日、失意のうちに薨去された。

二十年後の延長元年（九二三）四月二十日、冤罪は晴れ、右大臣に復されて位も一階級上げて正二位が追贈され、左降の文書はその日のうちに焼却された。さらに正暦四年（九三三）六月には正一位左大臣を、同年閏十月には人臣としては最高位の太政大臣を追贈されている。



文子天満宮例祭

神輿、氏子区域を巡行



当宮の創建に携わった多治比文子が自邸で菅公を祀った末社文子天満宮の例祭が四月十二日から十五日までの四日間にあたり斎行された。

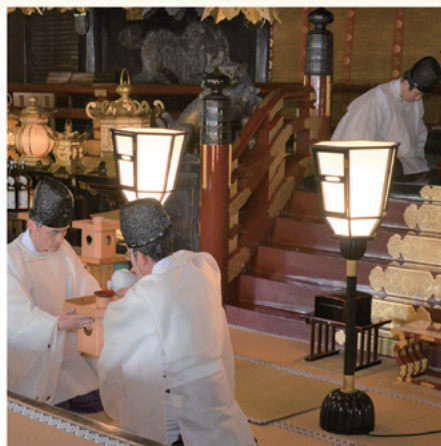
文子天満宮は、文子が最初に菅公をお祀りした自らの宅地跡を霊地として建てられたが、明治初期に境内の現在地に遷された。例祭は、地域の人たちから「文子さん」「文子まつり」と呼ばれて親しまれている。

神幸祭の十二日は、午後二時から文子天満宮前で祭典が斎行され、御神霊が遷された神輿を神職や西之京瑞饋神輿保存会の人たちがお供して同天満宮御旅所（上ノ下立売天神筋上ル）まで渡御した。還幸祭の十五日は御旅所での祭典後、神輿は保存会の人たちに護られながら巡行し文子天満宮へ還幸した。



献酒祭を斎行

酒造りの安全と業界の繁栄を祈願



御神前に新酒を供え、献酒祭を五月十六日午前十一時から御本殿で斎行した。

室町時代、当宮神人に麴造りの特権（北野麴座）が与えられたことから酒造関係者の崇敬があり、酒造組合や酒造会社の代表が玉串を捧げ、良い酒が出来たことに感謝し、酒造りの安全と業界の繁栄、関係者の無病息災を祈願した。

献酒頂いた酒造会社・酒造組合は次の通り。（順不同）

佐々木酒造・松井酒造・宝ホールディング・増田徳兵衛商店・豊澤本店・黄桜・東山酒造・齊藤酒造・北川本家・山本本家・月桂冠・山本勘蔵商店・京姫酒造・鶴正酒造・都鶴酒造・平和酒造合資会社・藤岡酒造・キンシ正宗・玉乃光酒造・招徳酒造・向島酒造・城陽酒造・丹山酒造・関酒造・大石酒造・長老・羽田酒造・浪乃音酒造・平井商店・古川酒造・太田酒造・暁酒造・松瀬酒造・矢尾酒造・喜多酒造・愛知酒造・藤居本家・北島酒造・沢の鶴西日本支店・白鶴酒造大阪支社・本野田酒造・木谷酒造・日本盛・北山酒造・白鷹・松竹梅酒造・辰馬本家酒造・國産酒造・万代大澤醸造・大澤本家酒造・大関・今津酒造・櫻正宗・菊正宗酒造・小山本家酒造・灘浜福鶴蔵・剣菱酒造・安福又四郎商店・福徳長酒類・木下酒造・福光屋・三宅本店・奈良豊澤酒造・林酒造・伏見酒造組合・滋賀県酒造組合・西宮酒造家十日会・灘五郷酒造組合

賑わう「雷除大祭」

摂社火之御子社の例祭



「雷除大祭」の名で知られる摂社火之御子社の例祭を六月一日午前四時から斎行した。

火雷神を祀る火之御子社は、当宮が鎮座する前からこの地にあった古社。雷電・火難・五穀豊穡の守り神として朝廷の厚い崇敬を受けてきた。現在も雷除けの信仰は根強くあり、この日は電気工事従事者や電力会社員、釣り人、ゴルフ愛好家らの参拝が多い。

祭典は開門前、暁闇の中で斎行し、雷除けのお札・お守りのお祓いをし、午前五時の開門とともに授与したが、終日、大勢の参拝者で賑わった。

この日、絵馬所では恒例となっている京都産業大学「落語長屋」による落語奉納が行われ、参拝者を笑いの世界に誘った。

青柏祭

季節の変わり目の神事

柏の葉にご飯を包んで御神前に供え、日々の神恩に感謝し、無病息災を祈願する青柏祭を六月十日午前十時から御本殿で斎行した。

季節の変わり目の神事であり、柏の葉は古代から祭事に用いる神聖なもの。



宮渡祭を斎行

北野の現在地に当宮が鎮座された日に当たる六月九日、御本殿で午前十時から宮渡祭を斎行した。

大宰府で薨去された菅公の御神霊から「北野の地に鎮まりたい」との託宣が、西ノ京に住む多治比文子、近江比良宮の神主の子、太郎丸に降り、天暦元年（九四七）六月九日、この地に社殿が創建された。毎年この日に宮渡祭を斎行し、往時を偲んでいる。



二條流献茶式



煎茶の二條流の献茶式が六月三日午前十時から御本殿で斎行された。社中の約百人が参列される中、二條雅莊家元がご奉仕され、御神前に煎茶が献上された。式典の後、明月舎に茶席が設けられた。

大福梅の梅の実採取 ニ・二トンを採取

正月の縁起物として使われる「大福梅」の梅の実の採取が五月三十一日から約一週間かけて境内一円で行われた。

境内には約五十種・千五百本の梅の木があり、京都市内随一の梅の名所。「大福梅」は正月の縁起物としては欠かせないもので、梅の実の採取は例年この時期の恒例となっている。

青々とし、わずかに赤味を帯びた梅の実を巫女や神職、氏子崇敬者らが一つずつ丁寧に摘み取っていた。例年通り二・二トンを収穫した。



台所の守護神 竈社例祭



東門内の北に鎮座する末社竈社の例祭を、六月十七日斎行した。竈社は、当宮の御供所に祀られていた台所の神々をお祀りしており、社殿の床下には昔から使われてきた大釜が納められている。例祭日は明治十四年末社に列せられた日に当たり、各家庭の守護を祈念した。



梅雨の晴れ間、酷暑の中、夏越天神賑わう

この日は梅雨の晴れ間となり、
酷暑となった
境内一円にはい
つも通り多くの
露店が並び、参
拝者の列は終日
途絶えることな
く続いた。



この日は梅雨の晴れ間となり、
京都市内の最高気温は三四・三度（平年
二八・三度）の
酷暑となった
が、参道を始め
境内一円にはい
つも通り多くの
露店が並び、参
拝者の列は終日
途絶えることな
く続いた。



六月二十五日は菅公の御誕生日。御本
殿では、午前九時から御誕辰祭が宮司以
下の神職によって厳肅に斎行された。楼
門では、この日の恒例「大茅の輪くぐり」
が行われ、早朝から終日にわたって無病
息災を祈願する参拝者で大賑わいをみせ
た。

菅公は承和十二年（八四五）の六月
二十五日、文章博士の菅原是善公の第三子
として京都で誕生され、延喜三年（九〇三）
二月二十五日に大宰府で薨去された。こ
れに因んで毎月二十五日は「天神さん」の
御縁日として賑わうが、とくに六月の御
縁日は「夏越天神」とも呼ばれ、盛夏を
前にして楼門に取り付けた大茅の輪をく
ぐって厄除けと無病息災を祈る信仰が定着している。

楼門の「大茅の輪くぐり」で無病息災祈願
御本殿では御誕辰祭を厳肅に斎行



夏越の大祓式斎行
約千人参列し半年間の罪穢れを払う



夏越の大祓式を、六月三十日午後
四時から御本殿前中庭で崇敬者・参
拝者約千人が参列し斎行した。
今年半年間に身についた罪や穢れ
を祓い清め、すがすがしい気持ちで
夏を過ごすことを願う神事で、参列
者全員が大祓詞を奏上し、それぞれ
が切麻にて邪気を祓った。
この後、神職を先頭に参列者が背
丈ほどの大きさの茅の輪を古式通り
三度くぐりぬけて、元気に夏が過ご
せるように祈った。
また、この半年間に納められた人
形・車形代などが唐櫃に入れられ、
神職が担いで同様に茅の輪をくぐつ
た。



永延元年（九八七）、一條天皇が初めて北野祭を勅祭として斎行された日にあたり、一年で最も大切な祭典。また農耕の神としての御神徳を景仰し、氏子である西ノ京の農家より夏野菜が奉納される。

例祭【北野祭】

八月四日



宇治・宇治田原・木幡・城陽・狭山・京田辺・醍醐・伏見・向島・綴喜・山城・南山城・信楽の茶所より摘まれた新茶を御神前に供え、献茶家の家内安全と茶業の繁栄を祈願する。

新茶奉献奉告祭

七月二十五日



夏の文化財防火デーにあたる七月中旬、当宮において上京消防署と当宮自衛消防隊・翔鸞学区自主防災会・翔鸞消防分団などとの連携による防火訓練を行う。

自衛消防訓練

七月十二日



正月の縁起物として事始め（十二月十三日）から授与する「大福梅」調製用の梅の実を、梅雨明けをうけて神職・巫女総がかりで土用干しする。

大福梅の土用干し

七月中旬～八月中旬

祭事暦(7月1日～9月30日)

《7月》

7月 1日	午前10時	月首祭
5日	午前10時	神仏合同国家安泰世界平和祈願会
12日	午前10時	當日祭
15日	午前10時	月次祭
	午前10時半	天満宮講社奉賛活動現況奉告祭
25日	午前9時	月次祭
	午前11時	新茶奉獻奉告祭
	午後4時半	夕神饌

《8月》

8月 1日	午前10時	月首祭
3日		参籠

北野御手水神事

4日	午前9時	例祭(北野祭)大祭式
6日	午後4時	御手洗祭前夕饌
7日	午前10時	御手洗祭
12日	午前10時	祈願絵馬焼納式
	午前11時	学業大祭
15日	午前10時	月次祭
25日	午前9時	月次祭
	午後4時半	夕神饌
26日	午後3時	奉納図画展授賞式

《9月》

9月 1日	午前10時	月首祭
15日	午前10時	月次祭
23日	午前10時	秋季皇霊祭遙拝式
24日	午前9時	神輿飾り
25日	午前9時	月次祭
	午後4時	夕神饌
26日	午後4時	ずいき祭稚児奉仕者奉告祭

月釜献茶(8月1日～10月31日)

《8月》

8月 1日	献茶祭保存会	堀内社中	(明月舎)
12日	梅文会	休会	(松向軒)
15日	献茶祭保存会	休会	(明月舎)
	松向軒保存会	休会	(松向軒)
26日	紫芳会	休会	(松向軒)

《9月》

9月 1日	献茶祭保存会	松山 宗泉	(明月舎)
9日	梅文会	晴 風 会	(松向軒)
15日	献茶祭保存会	金澤宗維社中	(明月舎)
		俱 足 会	(明月舎)
	松向軒保存会	鮎子田 宗恵	(松向軒)
23日	紫芳会	今村 宗幸	(松向軒)

《10月》

10月 1日	献茶祭保存会	北野 宗道	(明月舎)
14日	梅文会	西澤 宗房	(松向軒)
15日	献茶祭保存会	中田 宗俊	(明月舎)
	松向軒保存会	藤井 宗朝	(松向軒)
28日	紫芳会	新井 万太	(松向軒)



奉納図画展

八月二十日、二十六日

八月二十六日

奉納図画展授賞式

入賞者参列のもと祭典を斎行し、授与式を執り行う。

夏休み恒例となっている奉納図画展が、八月二十日より絵馬所にて開催され、子どもたちが描いた力作を展示する。



北野七夕祭

八月四日、十六日

境内夜間参拝
史跡御土居ライトアップ

七夕笹で飾られた境内一円をライトアップの光が照らし、幻想的な雰囲気の中夜間参拝を実施。期間中の様々な行事とともに、七夕の夕べを盛り上げる。



四年目迎えた

史跡御土居「青もみじ」公開、六月まで多くの拝観者
人気年々上昇、陽光に映える緑鮮やか



展望所から御本殿を望む

史跡御土居「もみじ苑」の「青もみじ」公開が四月十四日から始まった。豊臣秀吉公が築いた御土居には約三百五十本のもみじがあり、史跡に指定されている。紅葉が美しい秋と、梅苑開苑中の春の年二回の公開としてきたが、「折角、遠くから参拝に來たのに御土居に入れないのは残念」とする他府県からの参拝者からの声を受け、平成二十七年から若葉の美しい四月中旬から「青もみじ」として公開している。

「北野の青もみじ」の名が定着し「青もみじ」を愛でるために当宮を参拝する人が年々増えているなか、例年五月下旬になると初夏の暑さとともに「青もみじ」を愛でる人は極端に減るが、今年は一向に減る気配はなく、六月末まで多くの拝観者が訪れた。

もつとも「青もみじ」を愛でる人は古くからあったわけで、あの兼好法師も『徒然草』の中で「卯月ばかりの若楓、すべて、よろずの花、紅葉にもまさりてめでたきものなり」と綴っている。

「青もみじ」公開に合わせ、五月三日には神若会北野天神太鼓会が一の鳥居前で「青もみじ太鼓」約十曲を披露した。また、宝物殿では薩摩藩島津斉興公奉納の「金燈籠」一对の特別公開や、海北友松筆の重文「雲龍図屏風」の特別公開（春期京都非公開文化財特別展）、さらに文道会館では如山会刀遊会員による能面展が開かれた。



重文『雲龍図屏風』を公開 春期京都非公開文化財特別展賑わう



雲龍図屏風公開

友松は、北野社と相当深い関係があったといわれ、儒者の三宅亡羊からの要請により北野社の社僧・能礼に千句連歌の記録の借用を依頼したことが、友松の書状（新潟・糸魚川歴史民俗資料館蔵）からも伺える。

平成三十年度「春期京都非公開文化財特別展」Ⅱ京都古文化保存協会主催Ⅱが、四月二十七日から五月六日まで宝物殿で開かれ、海北友松筆の『雲龍図屏風』（重文、六曲一双）が出版され、多くの鑑賞者で賑わった。

海北友松（一五三三—一六一五）は、狩野永徳や長谷川等伯と並び称せられる桃山画壇の巨匠。画龍の名手といわれ、今回公開されたこの雲龍図屏風は、数多くある友松の雲龍図の中でも建仁寺大方丈のものと双璧をなすものとして高い評価を得ている。



非公開文化財展 修学旅行生も多数来館

如山会刀遊会員による能面展 「能の華 天神さんに集う」

能面師梅原如山氏（京都市左京区）が主宰する如山会刀遊会の会員による能面展「能の華 天神さんに集う」が、五月二十三日から三十一日まで文道会館で開かれ、約八十点の能面が鑑賞者を幽玄の世界に誘った。

同会による能面展は五年ぶり二回目。梅原氏の指導を受けている二十人の会員全員が、能面の原点といわれる「雪の小面」を一点ずつと各自が他に三点ずつ出展した。「小面」以外の作品は重なり合わないように出展しており、「景清」「蟬丸」「翁」といった六十種の能面が並ぶという壮観なものとなった。

師の梅原氏も会員と同じ「小面」など四点を特別出展し、制作中のスライドも流された。



およそ八十面を一堂に公開



能面に観入る鑑賞者



展示の様子



ようこそ 修学旅行の聖地 北野天満宮へ



天神さまのご加護で、ご祈願の成就を

様々な願いを込め、修学旅行生の昇殿参拝、賑わう



クラス別の入試合格昇殿参拝

修学旅行の聖地として、御本殿に昇殿参拝し「志望校に合格しますように」「学力が向上しますように」などなど、天神さまの御加護を祈る学校は年々増加しているが、今年も四月上旬から七月の中旬にかけて、多くの中学生を中心とする修学旅行生が訪れ、御本殿前の中庭は連日ごった返す賑わいを見せた。

修学旅行生の昇殿参拝は春と秋が中心で、とくに春に多いのが特徴となっている。今年の数字を拾ってみると、四月三百六十八クラス、

五月七百八十二クラス、六月七百クラス、七月も九十四クラス（七月十五日現在）と、昨年を凡そ八十クラスも上回っている。

例年五月がもっとも多いが、今年も五月二十四日の六十七クラスをトップに一日四十クラス以上の日が目白押しで、御本殿前は昇殿の順番を待つ生徒で大賑わいとなり、一般参拝者から「さすが受験の神さま、天神さまだ」と驚きの声があがっていた。

とくに七月六、七の両日は、大雨による警報が出される悪天候だったが、事前の申し込みをしていなかった学校を含め六日十二クラス、七日八クラスの生徒が、降りしきる雨の中昇殿参拝し「豪雨の中、大変だったろうに」と

受け入れの神職を感動させた。

担当の神職によると、昨年まで自由参拝だった関東圏の学校の幾つかが今年は昇殿参拝に変えた、生徒手づくりのぞうきんを奉納した学校があった、和服での参拝が目についた、という。

京都への修学旅行は、短い時間で京都の名所旧跡を回らなければならないという時間的な制約があり、そんな中での昇殿参拝数の増加だけに「出来るだけ参拝がしやすいように」と受け入れ態勢にも力を入れている。当宮の由緒や社殿を解説した神職手づくりのDVDを過去に昇殿参拝したことがある全国の学校に送付しており「修学旅行前に学校内で事前学習ができており、たとえ天満宮での滞在時間が短くても、心をこめた参拝ができる」と、好評を呼んでいる。

◆修学旅行参拝者数

（平成三十年四月一日～七月十五日）但し、お申し出を頂いた数

四月	昇殿参拝	一五八校	三八八クラス	自由参拝	二一七校
五月	昇殿参拝	二八三校	七八二クラス	自由参拝	五六七校
六月	昇殿参拝	二七六校	七〇〇クラス	自由参拝	三五二校
七月	昇殿参拝	三三三校	九四四クラス	自由参拝	四三三校
合計	昇殿参拝	七五〇校	一九四四クラス	自由参拝	一一七九校

※その他、タクシー参拝・班別参拝等を合わせると、およそ三十万人の修学旅行生の方々が参拝されました。

此の度の参拝を心の支えとされ、
また天神さまの御加護によりご祈願の成就をお祈り申し上げます。



連日の修学旅行参拝

修学旅行 のひとこま



本殿前授与所の様子



天神さまに合格祈願の願いを込めて



みくじや願いろうそくを受ける学生たち



お守りを求め授与所に並ぶ生徒

修学旅行特別昇殿参拝学校一覧

●東京都

大妻中学校
3クラス
杉並区立中瀬中学校
1クラス
杉並区立天沼中学校
2クラス
国立市立国立第三中学校
1クラス
青梅市立第二中学校
3クラス

●神奈川県

川崎市立川崎中学校
2クラス
川崎市立京町中学校
3クラス
川崎市立南大師中学校
1クラス
川崎市立田島中学校
2クラス
川崎市立大師中学校
2クラス
川崎市立桜本中学校
2クラス
川崎市立渡田中学校
3クラス
川崎市立川中島中学校
2クラス
川崎市立臨港中学校
4クラス
川崎市立富士見中学校
1クラス
川崎市立井田中学校
5クラス
川崎市立西中原中学校
8クラス
川崎市立宮内中学校
4クラス
川崎市立今井中学校
2クラス
川崎市立玉川中学校
3クラス
川崎市立住吉中学校
3クラス
川崎市立御幸中学校
2クラス
川崎市立南河原中学校
1クラス
川崎市立塚越中学校
2クラス
川崎市立南加瀬中学校
1クラス
川崎市立日吉中学校
3クラス
川崎市立西高津中学校
3クラス
川崎市立高津中学校
4クラス
川崎市立東橋中学校
2クラス
川崎市立東高津中学校
4クラス
川崎市立生田中学校
3クラス
川崎市立稲田中学校
5クラス
川崎市立中野島中学校
2クラス
川崎市立立禅寺中央中学校
2クラス
川崎市立金程中学校
2クラス
川崎市立西生田中学校
4クラス
川崎市立麻生中学校
3クラス
川崎市立柿生中学校
2クラス
川崎市立長沢中学校
2クラス
川崎市立白鳥中学校
2クラス



●千葉県

千葉市立稲浜中学校
3クラス
千葉市立轟町中学校
2クラス
千葉市立みつわ台中学校
2クラス

川崎市立宮崎中学校
4クラス
川崎市立宮前平中学校
2クラス
川崎市立大蔵中学校
1クラス
川崎市立平中学校
1クラス
川崎市立野川中学校
6クラス
川崎市立有馬中学校
1クラス
横浜市立みたけ台中学校
2クラス
横浜市立笹下中学校
1クラス
横須賀市立不入斗中学校
1クラス
三浦市立初声中学校
3クラス
横浜市立都岡中学校
3クラス
横浜市立境木中学校
3クラス
横浜市立深谷中学校
1クラス
藤沢市立明治中学校
5クラス
藤沢市立湘洋中学校
2クラス
藤沢市立滝の沢中学校
4クラス
藤沢市立御所見中学校
1クラス
伊勢原市立伊勢原中学校
3クラス
伊勢原市立山王中学校
4クラス
二宮町立二宮中学校
4クラス

千葉市立白井中学校
1クラス
印西市立本埜中学校
1クラス
印西市立船穂中学校
2クラス
印西市立瀧野中学校
1クラス
印西市立印旛中学校
3クラス
栄町立栄中学校
4クラス
我孫子市立久寺家中学校
3クラス
我孫子市立湖北台中学校
2クラス
我孫子市立白山中学校
1クラス
松戸市立河原塚中学校
2クラス
松戸市立第四中学校
2クラス
松戸市立牧野原中学校
2クラス
松戸市立立小金北中学校
3クラス
松戸市立根本内中学校
3クラス
松戸市立小金南中学校
4クラス
松戸市立第六中学校
5クラス
松戸市立立桜台中学校
4クラス
白井市立桜台中学校
1クラス
野田市立川間中学校
2クラス
流山市立南部中学校
4クラス
流山市立八木中学校
3クラス
流山市立西初石中学校
1クラス
流山市立北部中学校
4クラス
流山市立東深井中学校
2クラス
流山市立立東部中学校
6クラス
流山市立立南流山中学校
3クラス
松戸市立旭町中学校
3クラス
松戸市立第一中学校
4クラス
松戸市立第二中学校
1クラス
松戸市立第三中学校
3クラス
市川市立塩浜学園
2クラス
市川市立第二中学校
2クラス
市川市立大洲中学校
1クラス
市川市立第八中学校
1クラス
市川市立第四中学校
5クラス
市川市立南行徳中学校
1クラス
市川市立福栄中学校
3クラス
鎌ヶ谷市立第三中学校
3クラス
鎌ヶ谷市立第四中学校
2クラス
鎌ヶ谷市立第二中学校
2クラス
船橋市立大穴中学校
1クラス
習志野市立第七中学校
2クラス
習志野市立第二中学校
7クラス
習志野市立第一中学校
2クラス
習志野市立第四中学校
1クラス
習志野市立第五中学校
5クラス
柏市立光ヶ丘中学校
4クラス

●茨城県

柏市立柏第五中学校
4クラス
柏市立高柳中学校
4クラス
柏市立酒井根中学校
3クラス
柏市立松葉中学校
4クラス
柏市立西原中学校
3クラス
柏市立中原中学校
3クラス
柏市立風早中学校
3クラス
柏市立南部中学校
1クラス
柏市立豊四季中学校
3クラス
柏市立柏第四中学校
2クラス
柏市立柏中学校
1クラス
柏市立柏第二中学校
7クラス
野田市立南部中学校
3クラス
野田市立北部中学校
2クラス
野田市立第一中学校
1クラス
浦安市立浦安中学校
6クラス
浦安市立高洲中学校
5クラス
浦安市立美浜中学校
4クラス
浦安市立明海中学校
1クラス
九十九町立九十九里中学校
2クラス
東金市立東金中学校
4クラス
東金市立東金中学校
2クラス
成田市立玉造中学校
3クラス
成田市立公津の杜中学校
2クラス
富里市立富里北中学校
1クラス
山武市立山武中学校
3クラス
山武市立蓮沼中学校
1クラス
市原市立国分寺台西中学校
3クラス
茂原市立茂原中学校
2クラス
君津市立周南中学校
2クラス
君津市立西南中学校
3クラス
大網白里市立大網中学校
2クラス
大網白里市立増穂中学校
2クラス
南房総市立富山中学校
1クラス
南房総市立富浦中学校
1クラス

みどりの学園義務教育学校
1クラス
つくば市立谷田部中学校
5クラス
古河市立古河第二中学校
5クラス
坂東市立岩井中学校
2クラス
坂東市立東中学校
2クラス
坂東市立南中学校
2クラス
結城市立結城東中学校
3クラス
結城市立結城南中学校
6クラス
結城市立結城南中学校
4クラス
筑西市立下館南中学校
5クラス
筑西市立下館中学校
5クラス
筑西市立関城中学校
3クラス
筑西市立下館北中学校
2クラス
笠間市立友部第二中学校
2クラス
笠間市立友部中学校
2クラス
笠間市立友部中学校
4クラス
笠間市立みなみ学園義務教育学校
1クラス
桜川市立岩瀬東中学校
2クラス
桜川市立大和中学校
2クラス
筑西市立協和中学校
5クラス
水戸市立笠原中学校
6クラス
水戸市立第四中学校
6クラス
水戸市立第二中学校
2クラス
水戸市立第五中学校
5クラス
水戸市立石川中学校
3クラス
ひたちなか市立阿字ヶ浦中学校
1クラス
ひたちなか市立那珂湊中学校
5クラス
ひたちなか市立平磯中学校
1クラス
小美玉市立小川北中学校
2クラス
常陸太田市立里美中学校
1クラス
水戸市立常澄中学校
4クラス
水戸市立国田義務教育学校
1クラス
水戸市立赤塚中学校
3クラス
水戸市立双葉台中学校
4クラス
水戸市立立飯富中学校
1クラス
茨城町立常光中学校
4クラス
茨城町立立常光中学校
5クラス
大洗町立第一中学校
1クラス
茨城県立茨城学園
1クラス
那珂市立第一中学校
4クラス
鉾田市立旭中学校
3クラス
ひたちなか市立佐野中学校
3クラス
ひたちなか市立勝田第一中学校
4クラス
常陸太田市立勝田第三中学校
3クラス
常陸太田市立峰山中学校
1クラス
常陸太田市立世矢中学校
1クラス
常陸太田市立金砂郷中学校
3クラス

日立市立台原中学校 1クラス
日立市立平沢中学校 2クラス
日立市立駒王中学校 3クラス
日立市立滑川中学校 3クラス
笠間市立岩間中学校 4クラス
大子町立大子中学校 2クラス
小美玉市立美野里中学校 4クラス
常陸大宮市立明峰中学校 2クラス
常陸大宮市立第二中学校 3クラス
常陸大宮市立大宮中学校 5クラス
水戸市立内原中学校 3クラス
東海村立東海中学校 1クラス
東海村立東海南中学校 6クラス
日立市立久慈中学校 2クラス
日立市立十王中学校 2クラス
日立市立日高中学校 1クラス
日立市立豊浦中学校 3クラス
北茨城市立磯原中学校 3クラス



●栃木県

作新学院中等部

宇都宮市立一条中学校 5クラス
宇都宮市立宮の原中学校 3クラス
宇都宮市立旭中学校 4クラス
宇都宮市立陽南中学校 4クラス
宇都宮市立瑞穂野中学校 1クラス
宇都宮市立豊郷中学校 6クラス
宇都宮市立陽北中学校 1クラス

宇都宮市立若松原中学校 1クラス
宇都宮市立国本中学校 1クラス
宇都宮市立雀宮中学校 5クラス
宇都宮市立姿川中学校 1クラス
宇都宮市立陽東中学校 2クラス
宇都宮市立泉が丘中学校 2クラス
宇都宮市立晃陽中学校 1クラス
宇都宮市立清原中学校 2クラス
宇都宮市立清原中学校 5クラス
壬生町立南大飼中学校 2クラス
真岡市立久下田中学校 3クラス
真岡市立山前中学校 1クラス
真岡市立長沼中学校 1クラス
真岡市立真岡中学校 2クラス
那須烏山市立南那須中学校 3クラス
那須烏山市立烏山中学校 3クラス
日光市立藤原中学校 2クラス
日光市立今市中学校 4クラス
日光市立足尾中学校 1クラス
日光市立大沢中学校 3クラス
日光市立小来川中学校 1クラス
益子町立益子中学校 2クラス
益子町立七井中学校 1クラス
益子町立田野中学校 1クラス
芳賀町立芳賀中学校 1クラス
鹿沼市立西中学校 2クラス
鹿沼市立北中学校 2クラス
小山市立大谷中学校 5クラス
小山市立美田中学校 2クラス
小山市立美田中学校 3クラス
小山市立小山第三中学校 5クラス
小山市立小山中学校 5クラス
小山市立豊田中学校 2クラス
小山市立小山城南中学校 8クラス
小山市立絹義務教育学校 1クラス
栃木市立藤岡第一中学校 3クラス
大田原市立若草中学校 3クラス
大田原市立湯津上中学校 1クラス
那珂川町立小川中学校 1クラス
那珂川町立馬頭中学校 3クラス
足利市立協和中学校 1クラス
佐野市立城東中学校 1クラス
栃木市立皆川中学校 1クラス
栃木市立吹上中学校 1クラス
栃木市立東陽中学校 2クラス
栃木市立都賀中学校 2クラス
栃木市立寺尾中学校 1クラス

栃木市立栃木西中学校 5クラス
宇都宮市立田原中学校 3クラス
宇都宮市立古里中学校 3クラス
宇都宮市立河内中学校 2クラス
野木町立野木中学校 3クラス
野木町立野木第二中学校 3クラス
下野市立南河内第二中学校 4クラス
下野市立石橋中学校 3クラス
下野市立南河内中学校 3クラス
上三川町立明治中学校 1クラス
小山市立乙女中学校 2クラス
小山市立間々田中学校 5クラス
足利市立富田中学校 2クラス
栃木市立岩舟中学校 2クラス
栃木市立大平南中学校 1クラス
栃木市立藤岡第二中学校 1クラス
矢板市立矢板中学校 2クラス



●埼玉県

さいたま市立本崎中学校 1クラス
さいたま市立大原中学校 1クラス
さいたま市立第二東中学校 2クラス
さいたま市立大宮東中学校 4クラス
さいたま市立指扇中学校 3クラス
さいたま市立土屋中学校 1クラス
さいたま市立宮原中学校 1クラス
さいたま市立日進中学校 3クラス

さいたま市立土呂中学校 4クラス
さいたま市立植竹中学校 2クラス
川口市立西中学校 5クラス
川口市立南中学校 4クラス
川口市立幸並中学校 1クラス
川口市立青木中学校 1クラス
川口市立十二月田中学校 3クラス
川口市立元郷中学校 4クラス
川口市立領家中学校 4クラス
川口市立在家中学校 1クラス
川口市立芝東中学校 3クラス
川口市立戸塚中学校 3クラス
川口市立立戸塚中学校 3クラス
川口市立芝西中学校 1クラス
川口市立小谷場中学校 2クラス
川口市立戸塚西中学校 2クラス
川口市立北中学校 6クラス
川口市立安行東中学校 1クラス
川口市立安行中学校 2クラス
川口市立榛松中学校 3クラス
川口市立東中学校 5クラス
川口市立八幡木中学校 1クラス
川口市立里中学校 2クラス
戸田市立戸田東中学校 4クラス
戸田市立喜沢中学校 1クラス
戸田市立新曽中学校 1クラス
戸田市立美笹中学校 3クラス
戸田市立戸田中学校 3クラス
蕨市立東中学校 2クラス
さいたま市立本太中学校 2クラス
さいたま市立大谷口中学校 3クラス
さいたま市立大谷場中学校 1クラス
さいたま市立南浦和中学校 3クラス
さいたま市立内谷中学校 3クラス
さいたま市立白岸中学校 2クラス
さいたま市立白幡中学校 2クラス
さいたま市立原山中学校 3クラス
さいたま市立東浦和中学校 1クラス
さいたま市立尾間木中学校 1クラス
さいたま市立片柳中学校 1クラス
さいたま市立大谷中学校 2クラス
さいたま市立七里中学校 3クラス
さいたま市立上久保中学校 2クラス
さいたま市立土合中学校 1クラス
さいたま市立与野南中学校 2クラス
さいたま市立西原中学校 1クラス
さいたま市立城南中学校 2クラス

さいたま市立柏陽中学校 4クラス
さいたま市立岩槻中学校 1クラス
さいたま市立城北中学校 5クラス
幸手市立西中学校 3クラス
八潮市立八潮中学校 2クラス
三郷市立栄中学校 4クラス
三郷市立前川中学校 3クラス
三郷市立北中学校 4クラス
三郷市立瑞穂中学校 3クラス
三郷市立南中学校 2クラス
三郷市立彦成中学校 1クラス
三郷市立早稲田中学校 1クラス
吉川市立中央中学校 5クラス
吉川市立南中学校 4クラス
吉川市立東中学校 5クラス
越谷市立中央中学校 1クラス
越谷市立立間台中学校 1クラス
越谷市立富士中学校 5クラス
越谷市立西中学校 1クラス
越谷市立南中学校 1クラス
越谷市立大相模中学校 2クラス
越谷市立北中学校 2クラス
越谷市立武蔵野中学校 1クラス
越谷市立大袋中学校 4クラス
越谷市立東中学校 1クラス
越谷市立平方中学校 1クラス
春日部市立葛飾中学校 2クラス
春日部市立豊野中学校 5クラス
春日部市立豊春中学校 1クラス
春日部市立春日部中学校 6クラス
春日部市立東中学校 3クラス
春日部市立中野中学校 2クラス
春日部市立緑中学校 3クラス
宮代町立須賀中学校 2クラス
杉戸町立広島中学校 1クラス
杉戸町立杉戸中学校 4クラス
久喜市立太東中学校 1クラス
久喜市立菖蒲中学校 3クラス
加須市立加須北中学校 2クラス
加須市立昭和中学校 4クラス
羽生市立南中学校 2クラス
白岡市立南中学校 1クラス
狭山市立狭山台中学校 6クラス
朝霞市立朝霞第一中学校 2クラス
和光市立大和中学校 4クラス
和光市立第二中学校 1クラス
新座市立第三中学校 1クラス



志木市立宗岡第二中学校	1クラス
飯能市立飯能西中学校	3クラス
入間市立東金子中学校	2クラス
入間市立金子中学校	1クラス
所沢市立三ヶ島中学校	1クラス
熊谷市立熊谷東中学校	3クラス
熊谷市立富士見中学校	4クラス
熊谷市立吉岡中学校	2クラス
行田市立太田中学校	1クラス
行田市立長野中学校	2クラス
行田市立忍中学校	2クラス
上尾市立瓦葺中学校	4クラス
上尾市立原市中学校	2クラス
上尾市立大谷中学校	2クラス
上尾市立東中学校	2クラス
上尾市立上平中学校	2クラス
上尾市立南中学校	3クラス
伊奈町立小針中学校	1クラス
北本市立東中学校	5クラス
北本市立西中学校	2クラス
鴻巣市立鴻巣西中学校	2クラス
鴻巣市立鴻巣北中学校	1クラス
鴻巣市立藤沢中学校	3クラス
深谷市立深谷中学校	1クラス
深谷市立深谷中学校	1クラス
神川町立神川中学校	1クラス
本庄市立児玉中学校	2クラス
本庄第一中学校	1クラス
秩父市立尾田蒔中学校	2クラス
鴻巣市立吹上北中学校	3クラス
深谷市立川本中学校	2クラス
寄居町立寄居中学校	1クラス
秩父市立荒川中学校	2クラス

●群馬県

甘楽町立甘楽中学校	3クラス
高崎市立吉井中央中学校	3クラス
高崎市立高松中学校	2クラス
高崎市立長野郷中学校	2クラス
高崎市立佐野中学校	1クラス
高崎市立榛名中学校	4クラス
高崎市立第一中学校	1クラス
高崎市立中尾中学校	2クラス
高崎市立豊岡中学校	1クラス
高崎市立大類中学校	1クラス
高崎市立塚沢中学校	6クラス
高崎市立並榎中学校	1クラス
高崎市立片岡中学校	3クラス
高崎市立箕郷中学校	2クラス
高崎市立矢中中学校	1クラス
玉村町立南中学校	2クラス
玉村町立玉村中学校	2クラス
太田市立木崎中学校	3クラス
富岡市立南中学校	4クラス
富岡市立東中学校	3クラス
千代田町立千代田中学校	3クラス
邑楽町立邑楽中学校	4クラス
前橋市立第七中学校	2クラス
前橋市立鎌倉中学校	1クラス
前橋市立桂宣中学校	3クラス
前橋市立第六中学校	1クラス
前橋市立みずき中学校	4クラス
前橋市立箱田中学校	1クラス
前橋市立第五中学校	1クラス
前橋市立大胡中学校	3クラス
伊勢崎市立宮郷中学校	3クラス
伊勢崎市立第一中学校	1クラス
太田市立西中学校	1クラス
館林市立第二中学校	3クラス
館林市立第四中学校	1クラス
館林市立第一中学校	4クラス
藤岡市立北中学校	1クラス
みどり市立大間々中学校	1クラス
みどり市立大間々東中学校	3クラス
桐生市立新里中学校	1クラス
桐生市立梅田中学校	1クラス
長野原町立西中学校	1クラス
長野原町立東中学校	1クラス
沼田市立白沢中学校	2クラス
沼田市立池田中学校	1クラス
みどり市立笠懸南中学校	5クラス



●長野県

安中市立第一中学校	1クラス
安中市立第二中学校	1クラス
安中市立松井田北中学校	1クラス
伊勢崎市立赤堀中学校	3クラス
伊勢崎市立あずま中学校	7クラス
渋川市立赤城北中学校	1クラス
前橋市立荒砥中学校	1クラス
前橋市立木瀬中学校	1クラス
みなかみ町立水上中学校	1クラス
長野市立裾花中学校	7クラス
長野市立柳町中学校	1クラス
長野市立西部中学校	2クラス
長野市立犀陵中学校	4クラス
小布施町立小布施中学校	2クラス
長野市立広徳中学校	6クラス
長野市立北部中学校	1クラス
長野市立東部中学校	4クラス
長野市立櫻ヶ岡中学校	2クラス
長野市立松代中学校	1クラス
長野市立信更中学校	1クラス
長野市立信州新町中学校	1クラス
長野市立更北中学校	3クラス
長野市立川中島中学校	3クラス
高山市立東北中学校	4クラス
須坂市立高山中学校	2クラス
須坂市立東中学校	2クラス
須坂市立墨坂中学校	2クラス
佐久市立白田中学校	3クラス

小諸市立小諸東中学校	6クラス
川上村立川上中学校	1クラス
立科町立立科中学校	2クラス
佐久市立浅間中学校	5クラス
佐久市立中込中学校	2クラス
佐久市立野沢中学校	4クラス
上田市立第一中学校	2クラス
上田市立第六中学校	2クラス
上田市立丸九中学校	3クラス
上田市立真田中学校	1クラス
上田市立第四中学校	1クラス
上田市立第二中学校	2クラス
上田市立第三中学校	2クラス
上田市立塩田中学校	1クラス
千曲市立更埴西中学校	4クラス
千曲市立更埴中学校	4クラス
千曲市立屋代中学校	2クラス
長野市立篠ノ井東中学校	3クラス
長野市立篠ノ井西中学校	4クラス
木島平町立木島平中学校	2クラス
栄村立栄中学校	1クラス
信濃町立信濃小中学校	1クラス
飯綱町立飯綱中学校	1クラス
坂城町立坂城中学校	4クラス
千曲市立戸倉上山田中学校	1クラス
飯山市立城北中学校	2クラス
飯山市立城南中学校	4クラス
軽井沢町立軽井沢中学校	1クラス
御代田町立御代田中学校	3クラス
松本市立梓川中学校	1クラス
松本市立鎌田中学校	2クラス
信州大学教育学部附属松本中学校	2クラス
松本市立女鳥羽中学校	2クラス
松本市立開成中学校	2クラス
松本市立松島中学校	4クラス
松本市立波田中学校	1クラス
松本市立山辺中学校	1クラス
松本市立長峰中学校	3クラス
茅野市立東部中学校	2クラス
茅野市立北部中学校	4クラス
茅野市立永明中学校	1クラス
原村立原中学校	2クラス
諏訪市立諏訪西中学校	1クラス
諏訪市立上諏訪中学校	2クラス
諏訪市立諏訪南中学校	4クラス
下諏訪町立下諏訪社中学校	1クラス
岡谷市立岡谷北部中学校	1クラス

岡谷市立岡谷西部中学校	3クラス
岡谷市立岡谷東部中学校	2クラス
岡谷市立岡谷南部中学校	1クラス
阿智村立阿智中学校	2クラス
飯田市立飯田東中学校	2クラス
飯田市立高陵中学校	3クラス
飯田市立飯田西中学校	2クラス
飯田市立旭ヶ丘中学校	6クラス
飯田市立鼎中学校	4クラス
伊那市立伊那中学校	1クラス
伊那市立東部中学校	8クラス
木曾町立開田中学校	1クラス
大町市立仁科台中学校	1クラス
安曇野市立三郷中学校	2クラス
安曇野市立穂高西中学校	5クラス
安曇野市立豊科南中学校	3クラス
安曇野市立明科中学校	1クラス
伊那市立春富中学校	3クラス
塩尻市立広陵中学校	5クラス
塩尻市立広陵中学校	4クラス
塩尻市立丘中学校	1クラス
塩尻市立塩尻西部中学校	3クラス
組合立両小野中学校	1クラス
阿南町立阿南第二中学校	1クラス
阿南町立阿南第一中学校	1クラス
高森町立高森中学校	2クラス
松川町立松川中学校	1クラス
天龍村立天龍中学校	1クラス
駒ヶ根市立赤穂中学校	1クラス
駒ヶ根市立東中学校	2クラス
松本市立菅野中学校	2クラス
松本市立信明中学校	3クラス
松本市立筑摩野中学校	2クラス
宮田町立宮田中学校	2クラス
辰野町立辰野中学校	3クラス
中川町立中川中学校	1クラス
南箕輪町立南箕輪中学校	2クラス
飯島町立飯島中学校	1クラス
箕輪町立箕輪中学校	1クラス
富士見町立富士見中学校	4クラス
大町市立八坂中学校	1クラス
大町市立美麻小中学校	1クラス
飯田市立竜峡中学校	2クラス
飯田市立遠山中学校	1クラス
池田町立高瀬中学校	1クラス
白馬村立白馬中学校	1クラス
南木曽町立南木曽中学校	1クラス

●山梨県

甲府市立上条中学校 4クラス
甲府市立南西中学校 3クラス
甲府市立北東中学校 3クラス
甲府市立北中学校 1クラス
甲府市立東中学校 2クラス
甲府市立西中学校 2クラス
忍野村立忍野中学校 1クラス
都留市立東桂中学校 1クラス
富士吉田市立下吉田中学校 5クラス
富士吉田市立明見中学校 2クラス
富士吉田市立吉田中学校 4クラス
富士吉田市立富士見台中学校 1クラス
山梨市立笛川中学校 2クラス
笛吹市立御坂中学校 3クラス
笛吹市立春日居中学校 2クラス
韮崎市立韮崎西中学校 4クラス
中央市立玉穂中学校 1クラス



●静岡県

伊豆の国市立長岡中学校 2クラス
伊豆の国市立韮山中学校 6クラス
伊豆市立中伊豆中学校 2クラス
小山町立須走中学校 1クラス
小山町立小山中学校 3クラス
沼津市立門池中学校 1クラス

沼津市立第三中学校 2クラス
沼津市立第一中学校 1クラス
沼津市立原中学校 2クラス
沼津市立第五中学校 5クラス
沼津市立片浜中学校 2クラス
沼津市立金岡中学校 6クラス
沼津市立愛鷹中学校 1クラス
沼津市立大岡中学校 5クラス
沼津市立大平中学校 1クラス
沼津市立今沢中学校 3クラス
沼津市立長井崎中学校 1クラス
沼津市立浮島中学校 1クラス
沼津市立第四中学校 3クラス
裾野市立東中学校 4クラス
裾野市立西中学校 3クラス
三島市立山田中学校 4クラス
三島市立北上中学校 3クラス
三島市立北中学校 4クラス
清水町立清水中学校 4クラス
清水町立南中学校 2クラス
長泉町立長泉中学校 7クラス
御殿場市立原里中学校 5クラス
御殿場市立南中学校 5クラス
御殿場市立御殿場中学校 7クラス
伊東市立対島中学校 3クラス
熱海市立熱海中学校 4クラス
伊東市立佐美中学校 2クラス
伊東市立門野中学校 3クラス
伊東市立南中学校 4クラス
富士市立岩松中学校 6クラス
富士市立富士南中学校 8クラス
富士市立田子浦中学校 6クラス
富士市立富士中学校 6クラス
富士市立吉原第一中学校 6クラス
富士市立吉原第二中学校 4クラス
富士市立吉原第三中学校 1クラス
富士市立大淵中学校 4クラス
富士市立須津中学校 3クラス
富士市立立陽中学校 7クラス
富士市立立吉原第三中学校 3クラス
富士市立立吉原東中学校 2クラス
富士市立元吉原中学校 1クラス
富士市立立西富士中学校 2クラス
富士市立立西富士根北中学校 2クラス
富士市立立井之頭中学校 1クラス
富士市立立富士宮第四中学校 6クラス
富士市立立富士宮第二中学校 4クラス

富士市立立北山中学校 2クラス
富士市立大富士中学校 5クラス
富士市立富士宮第三中学校 4クラス
富士市立富士宮第一中学校 6クラス
富士市立立東中学校 4クラス
富士市立立西中学校 1クラス
富士市立立観山中学校 6クラス
富士市立立鷹岡中学校 4クラス
富士市立立芝川中学校 2クラス
富士市立立鷹岡中学校 2クラス
静岡市立立籠上中学校 1クラス
静岡市立立籠上中学校 3クラス
静岡市立立安倍川中学校 3クラス
焼津市立大井川中学校 2クラス
吉田町立吉田中学校 1クラス
静岡市立服織中学校 2クラス
静岡市立立長田中学校 4クラス
静岡市立立比中学校 2クラス
静岡市立立比中学校 2クラス
富士市立富士川第一中学校 1クラス
富士市立富士川第二中学校 2クラス
組合立御前崎中学校 4クラス
学校組合立牧之原中学校 1クラス
静岡市立立豊田中学校 1クラス
静岡市立清水第二中学校 4クラス
静岡市立清水袖師中学校 1クラス
静岡市立清水第七中学校 1クラス
静岡市立清水第四中学校 3クラス
静岡市立清水第六中学校 3クラス
藤枝市立藤枝中学校 3クラス
藤枝市立立藤枝中学校 2クラス
藤枝市立立西益津中学校 4クラス
藤枝市立立西益津中学校 3クラス
島田市立立初倉中学校 3クラス
島田市立立金谷中学校 4クラス
浜松市立立東原中学校 4クラス
浜松市立立篠原中学校 4クラス
浜松市立立笠井中学校 1クラス
浜松市立立可美中学校 3クラス
浜松市立立北星中学校 6クラス
浜松市立立三方原中学校 6クラス
浜松市立立浜北北都中学校 1クラス
浜松市立立天竜中学校 1クラス
掛川市立立西中学校 4クラス
掛川市立立東中学校 4クラス
掛川市立立北中学校 6クラス
掛川市立立城東中学校 3クラス
掛川市立立大浜中学校 1クラス

菊川市立立岳洋中学校 2クラス
御前崎市立立浜岡中学校 5クラス
森町立立泉陽中学校 1クラス
袋井市立立周南中学校 1クラス
袋井市立立袋井中学校 3クラス
浜松市立立春野中学校 1クラス
磐田市立立神明中学校 1クラス
磐田市立立城山中学校 2クラス
磐田市立立豊岡中学校 2クラス
磐田市立立磐田第一中学校 2クラス
磐田市立立南部中学校 2クラス
菊川市立立菊川西中学校 5クラス



●愛知県
名古屋ユマニテク歯科製菓専門学校 2クラス

●岐阜県
岐阜聖徳学園高等学校 2クラス

●大阪府
開明高等学校 8クラス
近畿大学付属高等学校 6クラス

●奈良県
橿原市立八木中学校 1クラス

●和歌山県
開智高等学校 9クラス

●兵庫県
兵庫高等学校 9クラス

神戸星城高等学校 2クラス
兵庫県立洲本高等学校 4クラス
兵庫県立日高高等学校 1クラス

●山口県
萩市立大井小中学校 1クラス

●徳島県
徳島県立城南高等学校 2クラス
徳島県立名西高等学校 6クラス

●福岡県
啓新高等学校 2クラス

●富山県
富山市立立羽中学校 1クラス
富山市立立岩瀬中学校 1クラス
射水市立立新湊南部中学校 2クラス
富山市立立杉原中学校 2クラス

●新潟県
十日町市立吉田中学校 1クラス

●福島県
二本松市立立岩代中学校 1クラス
いわき市立立磐崎中学校 2クラス
いわき市立立内郷第一中学校 1クラス

●宮城県
古川学園中学校 2クラス
(順不同)



東京の幼稚園が立派な梅の木一對を奉納 奉告祭の後、梅苑で植樹式



マリアズベビー
ズソサエティ
(東京都渋谷区、
松岡まりあ園長)
が、白と紅一對の
立派な梅の木を
『皆の梅の会』の
名で奉納され、五
月十二日、御本殿
で奉告祭の後、梅
苑で植樹式を齎行
した。

同幼稚園の創立
三十周年を記念し
ての奉納。松岡園
長は、当宮責任役
員塩尻良市氏の長
男の妻敬子さんの三十年来の友人であり、奉告祭に
は、園児・保護者、塩尻氏父娘ら約三十人が参列され、
園の発展と子どもたちの健やかな成長を祈願された。
この後参列者は文道会館南側の梅苑に移動し、植樹
式が行われた。

松岡園長は、植樹された梅の木の前で園児らに「こ
の木が立派に育っていくよう、みなさんもうっしよ
に成長し、見守ってい
きましょうね」と話し
かけていた。

マリアズベビーズ
ソサエティは、日本の
心を大切にしながらも
他国のすぐれたところ
を学ぶ精神を基盤に「国
際社会に羽ばたくため
六歳までの最も重要な
時期に母と子が深い絆
を結び、共に学び、磨
きをかけていく」を教
育理念とし、松岡園長
が創始者。



正式参拝された皆様(敬称略)(四月～六月)

四月 一日 (日) 岩津天神太鼓会
四月 六日 (金) くろちく
四月 二十日 (金) 綴喜神社総代会
四月 二十二日 (日) 天神社
四月 二十五日 (水) 将棋連盟
五月 十二日 (土) 京都プライベートホテル
五月 十三日 (土) マリアズベビーズソサエティ
五月 十三日 (土) 羽生善治氏
五月 十三日 (土) 交通安全フェスタ

(THE SUPER CAR HERITAGE GATHERING 2018 in KYOTO)

五月 十五日 (火) 自衛隊京都地方協力本部
五月 十八日 (金) 沙流貴神社崇敬会
五月 十九日 (土) 稲荷神社敬神会
五月 二十日 (土) 京都橘大学
五月 二十日 (土) 古井神社
五月 二十一日 (火) 忠節天神神社
五月 三十一日 (木) 能面展関係者
六月 五日 (火) 天神神輿会
六月 七日 (水) 京都府宗教連盟
六月 十三日 (火) 日本橋三越伊勢丹会員
六月 十七日 (土) 春日井市天神社
六月 十八日 (日) クラブツーリズム
六月 十八日 (日) 傘寿のお祝い旅三日間
六月 十八日 (日) 富山県植生護国八幡宮
六月 十九日 (火) あいちシルバークレッシ
(6/22・6/26・6/29)
六月 二十日 (水) 西日本JRバスツアー
六月 二十七日 (金) 古典と歴史サークル風
六月 二十九日 (金) 賀茂御祖神社婦人会

挙式された皆様(四月～六月)

四月 一日 (土) 潮崎 大輔・恵子 ご夫妻
四月 二日 (土) 衣斐 隆浩・史子 ご夫妻
四月 二日 (土) Cotesman・咲子 ご夫妻
四月 二日 (土) 大原 哲矢・穂菜美 ご夫妻
四月 二日 (土) 岸本 耕・加奈 ご夫妻
四月 二日 (土) 岩崎 幹雄・涼子 ご夫妻
五月 二日 (土) 喜多 隼也・玖美 ご夫妻
五月 二日 (土) 菅原 一輝・絢子 ご夫妻
五月 二日 (土) 徳満 竜也・晶 ご夫妻
五月 二日 (土) 山田 啓喬・麻央 ご夫妻
五月 二日 (土) 古賀 知典・文 ご夫妻
五月 二日 (土) 丸山 雄一郎・裕子 ご夫妻
五月 二日 (土) 宮本 直彦・美里 ご夫妻
五月 二日 (土) 毛利 隆之・敬子 ご夫妻
五月 二日 (土) 山田 崇恭・さくら ご夫妻
五月 二日 (土) 高橋 洋・さやか ご夫妻
五月 二日 (土) 上嶋 将司・彩香 ご夫妻
五月 二日 (土) 新井 峻太・千賀 ご夫妻

新郎新婦様、御両家の皆様の末永いご多幸をご祈念申し上げます。

天神さん

思い出写真館

当宮所蔵の
多くの宝物を
収蔵し、拝
観の便を図っ
ている宝物
殿は、昭和
三年齋行の
千二十五年半
萬燈祭の主要
記念事業とし
て建設され
た。建設中の
骨組みの写真は、旧社報の「天神さん昔の風
景」で紹介済みだが、これは完成間近のもの
を正面から撮った一枚である。



記録によると、宝物殿の建設は数十年来の
念願であり、大正十五年五月十六日地鎮祭を
して直ちに着工、昭和二年十二月竣工してい
る。写真説明には「昭和二年九月十四日北野
会会長前田侯爵参拝」とあり、竣工三カ月前
の視察写真だったことがわかる。

防火に留意し、鉄筋コンクリート、銅板葺
きで、桃山様式の本殿と調和を図るため宮殿
造り様式とし、内部は通風・換気に配慮した
と記されている。

半萬燈祭の総予算の四分の一近い
十二万七千五百余円をかけて建設されたが、
近年雨漏りがひどくなり、平成十四年の千
百年大萬燈祭の前に改修工事が行われ、屋根は
酸性雨にも強いチタン葺きとなっている。



〈文道会館の催し〉

京都橘大学文化ゼミナール開催

― 当宮で史跡御土居を学ぶ ―



京都橘大学文学部歴史文化ゼミナールの今年度第一回講座が五月十九日、文道会館で開かれ、約六十人が史跡御土居について学んだ。

同ゼミナールは「京都・人とモノの再発見」をテーマに一般市民を対象に開く連続講座で今年で四年目。毎年全四回のうちの一回は、歴史遺産の場を探访

しており、この日、当宮で史跡御土居を学ぶことになった。
当宮に伝わる膨大な古文書の解説に長年携わっていた藤井讓治京都大学名誉教授が「北野天満宮境内の御土居について」と題して講演した。藤井名誉教授は、豊臣秀吉によって築造された御土居について、当宮境内にしほりながら江戸時代の幕府の管理体制や明治以降の状態などを、文献を提示しながらわかりやすく話された。その中では、損壊や修復、文化財保護にも触れられ、先ごろ発掘調査で見えられた悪水抜き（石組み暗渠）についても写真や地図を示しながら解説された。

講演後、受講者は神職の案内で境内を巡り、御土居内に入って講演の中で示された悪水抜きなどを見学した。この後、昇殿参拝して当宮でのゼミナールを終えた。

献詠 濱崎加奈子選

四月「蓬」

同窓の友を誘ひて蓬滴む

卒寿の幸をかみしめ乍ら

父見舞ひ帰り来る道摘みにけり

蓬に思ひ蓬と話す

春の野に赤人の和歌なつかしも

すみれ蓬に除草剤まく

蓬菜の茶壺並べし上皇は

日本茶宴の格式極む

さしも草しげれる宿の門前に

花かとぞ見て蝶のおとなふ

あの頃の苦さ噛みしめ今のあり

蓬生へたる学路に佇てば

なつかしき覚ゆる蓬そのむかし

土手にてつみし幼きころを

蓬生の宮の未摘花の君

誠の心天に通じん

蓬生の宿に主す壺萱

ひとの音せず春は暮れなむ

【評】上巳の節句に欠かせないのが蓬。源氏物語の巻名ともなっている「蓬生」は、よもぎなどが繁って荒れ果てている所をいい、「秋老けぬ鳴けや霜夜のきりぎりすやや影寒し蓬生の月」（後鳥羽院）など、秋の情景となる。

五月「磯」

磯に寄す小波みつめつはるかなる

まだ見ぬ世界夢ふくらめり

磯の香の漂ふ海辺寒天を

千す人々は潮風に靡く

磯香の白兔の海の漁火は

夜ごとに増して夏近づきぬ

子供らはしおまねき好き磯に出て

カニさんカニちゃん声をかけたる

荒磯に寒風すさむ越前の

崖間に咲ける水仙健気

幼き日夏もすがらに遊びては

磯風撫づる父の背にゐて

管公は詩歌に優れ、多くの名歌を詠われました。室町時代には「和歌の神」と仰がれ、さらに柿本人麻呂と山部赤人と並んで「和歌三神」と称えられています。

山間の祠を尋ね磯の香に

振り返り見れば碧に白波

磯辺ゆく旅の歩みを止めけり

くだくる浪にきら千鳥跳ぶ

をとめなる我らは磯にたはぶれき

君の逝きけむ夏のまた来ぬ

【評】波打ち際のことだが、とくに岩場のある海岸や湖岸をいう。「磯馴木」（そなれぎ）は潮風のために傾いている木のことで、「磯馴れ木のそなれそなれてむす昔のまほならずとも逢ひ見てしがな」（崇徳院）など。

六月「兆」

勅語もて「億兆心一ニシテ」

其の美を濟せる教育が源

孫娘今朝も鏡に長るして

恋の兆しか楽しみ眺む

再生の兆しの見えし一周忌

人それぞれの心の温度

いままきに兆見せたる若葉のび

日増しにいきおひつけて美し

栄えゆけ吉祥柄と紋付に

多幸へ加護の兆光溢るる

草取りを終へて麦茶の香ばしき

梅雨明け兆す里の空色

雲間より射す陽の光白峰の

神の降り立つ兆しと見ゆる

笑わねとおもひし人の片ゑみに

心さざめく恋の兆して

しめじめとまとへる闇の世に兆す

光は降り雨粒のごと

【評】再生の兆し、恋の兆しなど、希望あふれる歌が並んだ。災いのつづく世にあつて、それぞれに、少しでも明るい兆しが見えるようにと願う。

●献詠奉納についての問い合わせは、北野天満宮献詠係までご連絡ください。

◆職員結婚◆

上馬将司権禰宜は、奥村彩香さんと六月十六日に当宮で挙式。

京都町奉行瀧川具章奉納の手水鉢

神社における手水舎は、一般には神社境内表門を入ったところに一ヶ所あるのが普通である。ところが、北野天満宮には、楼門を入った右手と、東門を入った右手に、ほぼ同規模のそれともかなり大規模な手水舎がある。

楼門近くの手水舎、東門近くの手水舎には、それぞれに二つの、計四つの御影石の手水鉢がある。最も大きいのは、東門の手水屋の右手にある弘化三年（一八四六）九月に手花講と洗替講の二つ講の連名で奉納された手水鉢である。その大きさは縦九八センチ、横一九二・五センチ、高さ六〇・五センチである。

他の三つはほぼ同じ大きさであるが、そのうち楼門の手水舎の手水鉢二つは、ほぼ同じ大きさで、縦九〇センチ、横一五一センチ、高さ六二・五センチあり、文政五年（一八二二）二月吉日に手水講により奉納されたものである。

東門手水舎の左手の手水鉢は、大きさは縦八一・五センチ、横一五一センチ。高さ六二・五センチであり、縦は楼門の手水舎の二つよりわずかに小さいが、横幅・高さはほぼ変わらず、四つの手水鉢のなかでは最も古い。この手水鉢の正面には、右から、

奉寄進

手水鉢

元禄十四年二月吉日

瀧川山城守具章
と刻銘があり、元禄十四年（一七〇一）二月に瀧川山城守具章という人物が奉納したものである

奉納された元禄十四年という年は、翌十五年

の菅公八百年忌の前年にあたり、元禄十三年から五代將軍徳川綱吉によって北野天満宮の大修造がなされた折、本殿・廻廊・三光門・摂末社等とともに、この手水舎も修造された。おそらくこれを機会に手水鉢が奉納されたと思われる。

奉納者の瀧川山城守具章は、奉納当時京都町奉行の職にあった。寛永二十年（一六四三）、旗本瀧川利貞の三男として生まれ、万治三年（一六六〇）四代將軍家綱に拝調し、寛文三年（一六六三）書院番、それ以後昇進し御小姓となるが、家綱の死去にともないその職を赦された。五代將軍綱吉のもとでは元禄五年御目付となり、元禄九年一月十五日に京都町奉行に就任。この時廩米九〇〇俵に加えて近江国滋賀郡で五〇〇石を与えられ、さらに元禄一〇年廩米を改め、近江国滋賀・

蒲生二郡で一五〇〇石を領した。元禄十五年十月二十五日に京都町奉行を辞して以降は小普請となり、正徳二年（一七一二）十一月十八日に六九歳で没した。

瀧川具章と北野社との関係は、元禄十二年正月

二十二日に「御冠之筈」を奉納したのに始まったようである。この奉納にあたっては神事奉行である松梅院が潔斎し、翌日の奉納を迎えた。同日、瀧川具章は子息とともに社参し、松梅院・妙藏院・玉松院の祠官家、能順坊・能楽・能什・能範の宮仕衆、目代周世が出向するなか、本殿の裏手にある舍利門より本殿西側の夏堂に入った。参拝が終わったあと、会所において供米である三寸洗米を頂戴し下向した。この時期の町奉行の参拝としては破格の扱いであった。

瀧川の社参は、この後も続き、元禄十二年九月十九日には父子で、翌十三年正月二十日、七月二十八日には瀧川が社参している。



東門手水舎の刻銘



東門手水舎

重要文化財 東西廻廊他 御屋根葺替ご奉賛のお願い

北野天満宮では向う九年先に御祭神菅原道真公千二百二十五年に相当する式年大祭「半萬燈祭」を斎行する運びとなっております。

この大祭に先立ちまして、御社殿を始め境内各所の大修繕を行い、御神宝調度品の新調また時代に即した参拝施設の新設などを加え、連綿と受け継がれてきた天神信仰の精華と国宝重要文化財を後世に継承して参ります。就きましては、諸般何かとご負担の厳しい折とは存じますが、何卒趣旨ご理解ご賛同頂き、ご奉賛を賜りますようお願い申し上げます。

◆重要祭典及び奉納行事等

半萬燈祭

千二百二十五年大祭（新元号）九年

萬燈祭献燈

境内全ての吊燈籠・石燈籠

献茶祭 各家元奉仕

伝統文化芸能 神楽・舞楽・和太鼓・

日本舞踊・能・狂言・献花

献香・横綱土俵入り奉納他

◆主たる営繕事業

重要文化財東西廻廊他御屋根檜皮葺替

台風被害により捲れ上がった廻廊の檜皮

葺屋根修復工事の準備が始まった東廻廊

ご奉賛申込要領

工事費 三億六千万円

募財目標額 一億八千万円

(一) 郵便振替の場合

(二) 銀行振込の場合

(三) 現金書留にて郵送の場合

私製用紙に、奉賛金額（一括または分納の区別）・住所・氏名・電話番号等

をご記入いただき、当宮宛ご送付下さい。

(四) ご持参の場合

社務所または文道会館にて受付させていただきます。

一、ご芳名を御神前に供し報告いたします。

◎お申込み方法

所定の申込用紙に必要事項をご記入頂きお申込み願います。ご奉賛金は、左の「奉賛区分と特典」の一覧をご参照の上、ご検討ください。

◎奉賛金納付方法

一括又は分納の何れかの方法でお納め願います。

専用振込用紙にてご納付ください。

募財期間平成三十年四月より五年間

◎指定寄附金

（財務大臣が指定し、告示する寄附金）

平成三十年秋より翌年秋までにご奉賛頂きますと所得税法第七八条第二

項第二号により「寄付金控除」の対象となり、税法上の優遇措置を受けることができます。

◎ご奉賛頂いた方への特典

一、ご奉賛額に応じ記念品を贈呈いたします。

二、壹拾万円以上ご奉賛の方には感謝状を贈呈いたします。

但し、記念品・感謝状の贈呈は当事業終了後となりますのでご了承ください。

特別祈禱として毎朝御神前にてご奉賛者の家内安全、学業成就、諸願成就を祈禱いたします。





紅梅殿結婚式

日本文化の発信地、 紅梅殿からはじまる家族の日

貞観元年（八五九年）菅公が十五歳の元服の折、母君は菅公の前途を祝し、

『久方の月の桂も折るばかり家の風をも吹かせてしがな』の和歌を詠み励まされました。

我が国で最初に家風を表されたのが、菅公の母君であつたと伝えられています。立派な家風をもった稔り多い新たな家庭を築かれますようにとの願いをこめて、菅公邸宅ゆかりの紅梅殿での神前結婚式から新しい「家族」がはじまります。



天神様の秋まつり

ずいきまつり

瑞饋祭

●由緒

京都の代表的な秋祭りとして知られる瑞饋祭は、村上天皇の御代（天慶九年（九四六）〜康保四年（九六七））にはじまると伝えられています。年に一度、御鎮座の往時に思いを致し御神霊を「お迎えする」ことで、氏神としての天神様を改めて意識し感謝する心が育まれます。



十月	
一日	神幸祭 午後一時 行列出発 御旅所到着 献茶祭 （表千家宗匠奉仕）
二日	午後四時 午後三時 甲御供奉饗 （七保会奉仕）
三日	午後四時 午後三時半 行列入場 本社到着 后宴祭 （八乙女舞奉納）
四日	午後一時 午後四時 行列入場 本社到着 后宴祭 （八乙女舞奉納）
五日	午後三時半 后宴祭 （八乙女舞奉納）

七五三

詣は、知恵の神様

北野天満宮へ

一、受付日

十一月中、毎日受付いたします。
※但し、十一月二十三日（金）、十一月二十六日（月）は、祭典のためご祈禱を中断する時間帯がございますのでご了承下さい。

※尚、十一月以外の月も、事前にお申込み下さい。

二、七五三詣初穂料

一人 五千円より
二人 八千円（兄弟姉妹に限る）
三人 一万二千円（兄弟姉妹に限る）

三、授与品・記念品

知恵寺、千歳飴、祝い笹、デイズニーの学用品セット

四、案内状持参の特典

特別授与品の「勾玉」を進呈

★七五三詣の方は、

史跡御土居もみじ苑入苑優待あり

御縁日 境内ライトアップ

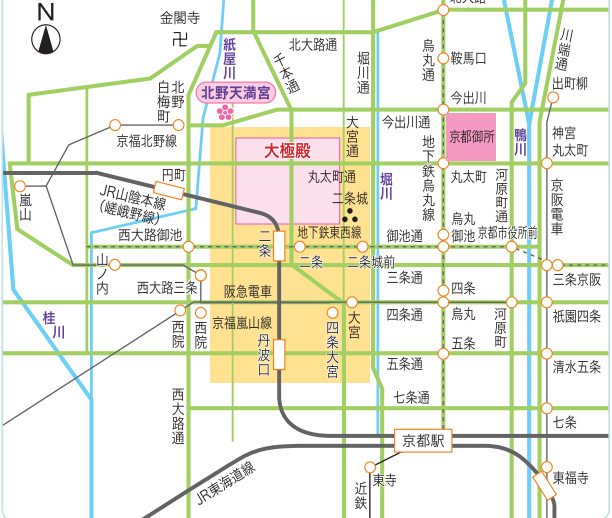


毎月25日は天神さんの御縁日。
夜9時まで境内特別ライトアップ！

定期購読のお知らせ

- 定期購読 1,000円（1年分）
季刊・年4回発行
- 学校・教育機関でお申込みの場合は無料発送。
- お申込み・お問い合わせは、社務所まで。

今昔マップ



平安京

当宮は平安京の乾に位置し、古くより天のエネルギー、パワーの働く北野の地に祀られています。

平安京の内裏、大極殿北西に位置し三光門の真上に北極星が輝き、天子様が北極星を拝する聖なる社でした。

平安京の大極殿（遷都より600年の間）は今の京都御所の西にありました。

紙屋川、堀川に挟まれ、すぐ北西に当宮が建てられています。

- 平安京（大内裏）
- 大極殿（室町時代迄の平安京）
- 京都御所（室町時代以降）

